

第5期みやぎ観光戦略プランの  
令和4年度の実施状況について  
(みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告)

令和5年6月

宮城県経済商工観光部

# 目 次

1	本報告書について	1
2	観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組	2
3	「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について	4
4	各数値目標の推移	5
5	令和4年度事業の実施状況	7
	回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復	8
	成長戦略1 魅力あふれる観光地づくり	23
	成長戦略2 観光産業の体制強化	42
	成長戦略3 受入環境の整備促進	50
	成長戦略4 戦略的な誘客プロモーション	55
6	基本計画の実施状況の検証	67

## 1 本報告書について

県は、みやぎ観光創造県民条例(平成23年宮城県条例第8号。以下「条例」という。)第12条第1項の規定により、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、条例第11条各号に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画を定めるものとしている。また、知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならないこととされている。

この報告書は、条例第12条第3項の規定により、毎年度議会に提出することとされている年次報告である。

参考：みやぎ観光創造県民条例(平成23年宮城県条例第8号) (抜粋)

(施策の基本方針)

第11条 県は、次に掲げる基本方針に基づき、観光振興に関する施策を積極的に推進するものとする。

- (1) 魅力あふれる観光地づくり、おもてなしの心の向上等の観光王国みやぎの実現のための取組を、会議の設置等県民総参加による運動として進めること。
- (2) 恵まれた自然、歴史、文化、景観、食、温泉その他の観光資源の保全、創造及び活用の取組への支援及び促進を図り、国際競争力及び国内競争力の高い魅力ある観光地の形成を図ること。
- (3) 観光に関する施設の整備、道路の整備、交通機能の充実その他の観光に関する社会基盤の整備を促進すること。
- (4) 観光事業者への必要な情報提供等の支援、観光事業者相互の連携及び観光事業者と産業観光など地域産業との連携の促進等により観光産業の競争力を強化することで、観光事業者の育成及び経営基盤の強化を図ること。
- (5) 観光事業に従事する者等の知識及び能力の向上、観光ボランティア等の育成その他の観光振興に寄与する人材の育成に関する取組を促進すること。
- (6) 大学等が観光振興に寄与する人材の育成等のために実施する教育活動へ協力すること。
- (7) 外国人観光客の受入環境の整備、市町村、近隣の県等との広域的な連携による取組その他の多様な誘客活動により、東アジアをはじめ海外からの観光客を積極的に誘致し、国際観光の振興及び国際相互交流を促進すること。
- (8) 多様な媒体を活用した国内外への戦略的な観光情報の発信その他の情報発信の充実のために必要な施策を実施すること。
- (9) グリーンツーリズムの更なる推進、スポーツツーリズム、コンテンツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム等の新しい観光分野の開拓、会議、展示会、映画撮影等の誘致及び観光客の受入態勢の整備等の取組を充実すること。
- (10) 県民等が主体となって行う食、文化、音楽、芸術等に関するイベント等との連携を図るとともに、これらのイベント等に対する必要な支援を行うこと。
- (11) 高齢者、障がい者及び外国人をはじめすべての観光客が安全に、安心して、快適に観光を楽しむことができる態勢の整備を促進すること。
- (12) 観光地における生活環境の美化並びに良好な景観の保全及び形成を促進するために必要な支援を行うこと。
- (13) 県民総参加による観光振興に取り組む意識を高めるため、観光に関する広報活動、教育活動等を積極的に実施すること。

(基本計画)

第12条 知事は、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、前条に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画(以下「基本計画」という。)を定めるものとする。

2 知事は、基本計画を定めるに当たっては、市町村、県民等の意見が反映されるよう必要な措置を講ずるとともに、宮城県産業振興審議会に諮問するものとする。

3 知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

## 2 観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組

県では、令和4年10月から令和7年3月までを計画期間とする基本計画「第5期みやぎ観光戦略プラン」(令和4年9月策定)を定め、条例の基本方針を踏まえながら、新・宮城の将来ビジョンの分野別計画として、5つの観光戦略プロジェクトに基づき、幅広く各種施策を実施している。

# 第5期みやぎ観光戦略プラン

みやぎ観光創造県民条例第12条第1項に掲げる基本計画

## 新・宮城の将来ビジョンの分野別計画

宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興

## 5つの観光戦略プロジェクト

### 回復戦略

感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1)安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
- (2)回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

### 成長戦略1

魅力あふれる観光地づくり

- (1)特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
- (2)観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
- (3)震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

### 成長戦略2

観光産業の体制強化

- (1)地域経済循環力の強化
- (2)地域を支える観光人財<sup>じんざい</sup>の育成・確保

### 成長戦略3

受入環境の整備促進

- (1)旅行者の安全・安心確保
- (2)多様化する旅行者の受入環境整備

### 成長戦略4

戦略的な誘客プロモーション

- (1)旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
- (2)東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

## 5つの観光戦略プロジェクトの具体的な取組

### 回復戦略：感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
  - 観光地として選ばれるための安全・安心の対策とその見える化の取組
  - 入国制限緩和を見据えたインバウンドへの取組
- (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見
  - 社会経済活動の回復フェーズや新たな旅のスタイルに対応した取組の推進
  - アウトドアコンテンツをはじめとする地域の魅力の再発見と旅行者の受入体制の構築
  - 交流人口に加え、関係人口の創出・拡大の取組

### 成長戦略1：魅力あふれる観光地づくり

- (1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
  - 食・自然・歴史・文化等の地域資源の発掘・磨き上げ
  - サステナブルツーリズム（持続可能な観光）の推進
  - 地域の独自性を売りにした体験型観光プログラムやデジタルを活用した観光コンテンツの造成
- (2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
  - 地域住民の郷土への誇りや愛着の醸成  
（観光客と地域住民の交流促進、おもてなし講座の開催、地域におけるふるさと教育の推進）
  - 旅行者や地域住民の自然環境の保全や旅行マナー等に関する意識の醸成
- (3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開
  - 震災の教訓を伝承するとともに、防災・減災学習など学びの機会の創出
  - 震災を契機とした地域との関係性の継続・深化

### 成長戦略2：観光産業の体制強化

- (1) 地域経済循環力の強化
  - 農林水産業などの他産業との連携強化やコト消費への転換、スポーツ、コンテンツツーリズム等や文化・音楽、芸術イベント等との連携
  - 地域の価値向上や空間的<sup>じんざい</sup>魅力の創出による観光地の高付加価値化
- (2) 地域を支える観光人財の育成・確保
  - 観光産業を牽引する「人財」の育成と活躍できる環境の整備
  - 高等学校（観光科・商業科）や大学等との連携による未来を担う観光人財の育成

### 成長戦略3：受入環境の整備促進

- (1) 旅行者の安全・安心確保
  - 災害や感染症等発生時の宿泊施設等の対応力・態勢強化
  - 旅行者への情報伝達態勢の整備
- (2) 多様化する旅行者の受入環境整備
  - 多言語化やキャッシュレス等の非接触化の促進、AI技術等による観光サービスの機能強化
  - ウィズコロナ・ポストコロナに適応したビジネスモデルの転換の促進
  - 地域内・広域周遊のための二次交通の利便性向上も含めた観光交通機能の強化
  - 安全性に配慮した自然公園施設等の整備

### 成長戦略4：戦略的な誘客プロモーション

- (1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
  - デジタルマーケティングを活用したプロモーションの実施
  - 首都圏・東アジアの重点市場などのターゲットに応じた誘客プロモーション
  - 安全・安心対策の更なる可視化と確実な情報発信
- (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進
  - 三陸沿岸道の全線開通や世界文化遺産などを生かした広域観光ルートの充実
  - 仙台空港24時間化を契機とした航空路線誘致等による中部以西等から東北への誘客促進

### 3 「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について

「第5期みやぎ観光戦略プラン」では、新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ観光需要を取り戻すべく、感染拡大前の水準までの回復を目指す回復目標を設定したほか、ポストコロナの観光需要を見据え、取組の加速化を図るために、成長目標を設定した。

#### <第5期みやぎ観光戦略プランの数値目標>

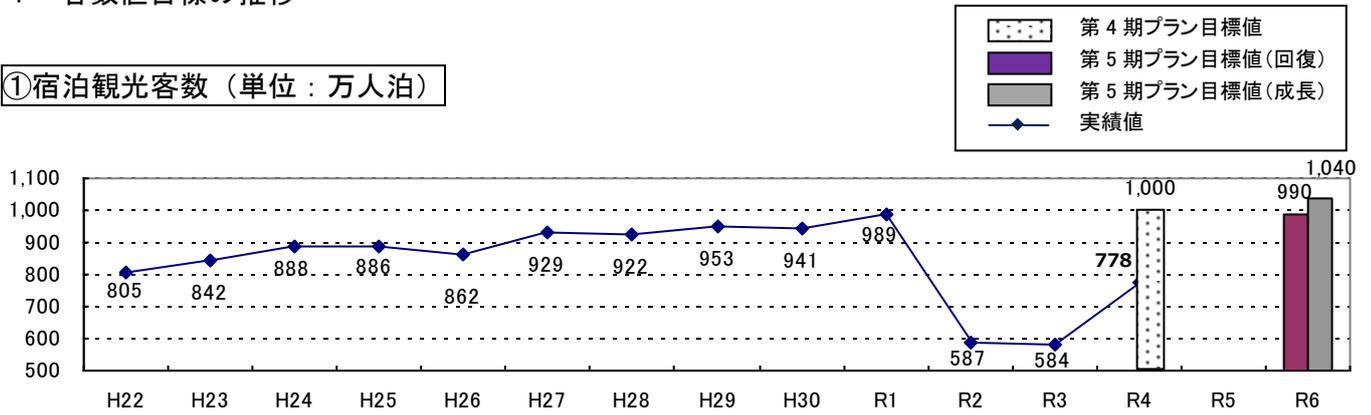
項 目	令和6年目標値	
	回復目標	成長目標
①宿泊観光客数	990万人泊	1,040万人泊
②外国人観光客宿泊者数	50万人泊	70万人泊
③観光消費額（観光庁共通基準による観光客入込統計）	3,990億円	4,200億円

#### <参考：第4期みやぎ観光戦略プランの数値目標>

項 目	令和4年 目標値
①観光客入込数	7,000万人
②沿岸部（石巻・気仙沼地域）の観光客入込数	805万人
③宿泊観光客数	1,000万人泊
④沿岸部（石巻・気仙沼地域）の宿泊観光客数	75万人泊
⑤外国人観光客宿泊者数	50万人泊
⑥観光消費額（観光庁共通基準による観光客入込統計）	4,000億円

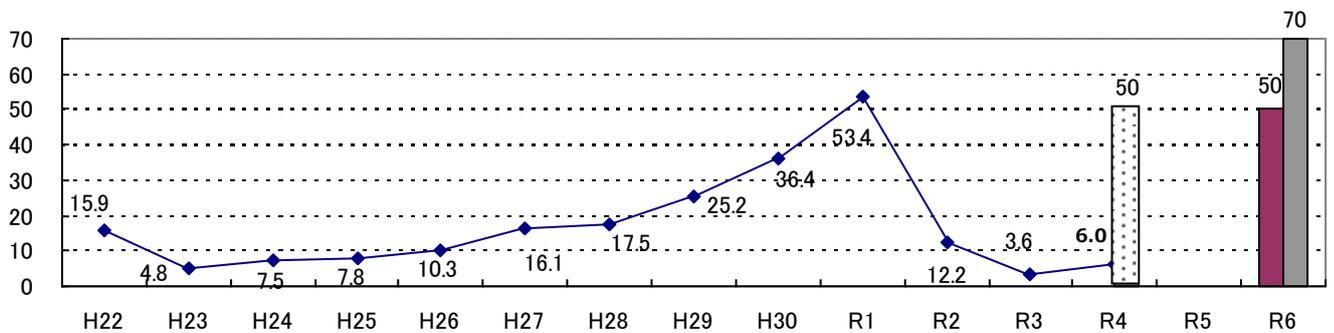
#### 4 各数値目標の推移

①宿泊観光客数（単位：万人泊）



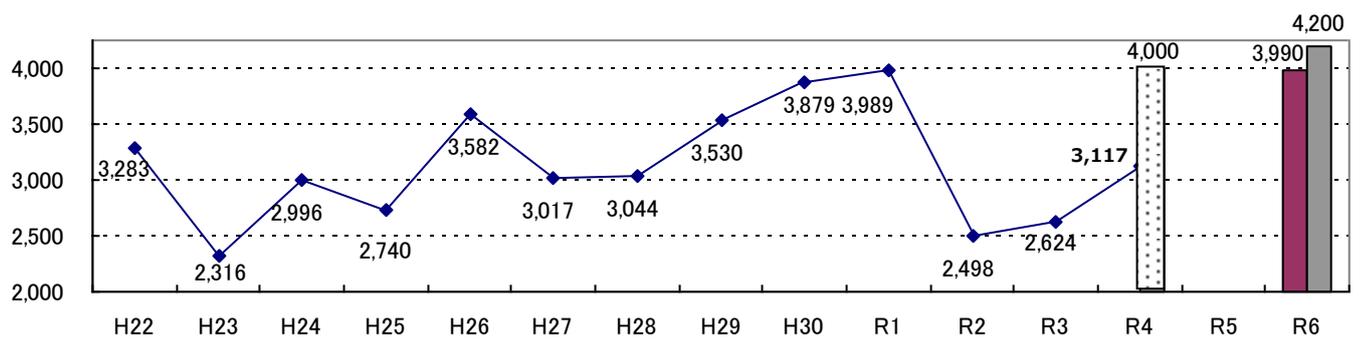
令和4年の「宿泊観光客数」は778万人泊で、前年との比較では194万人泊の増加(33.2%の増)となった。

②外国人観光客宿泊者数（単位：万人泊）



令和4年の「外国人観光客宿泊者数」は6.0万人泊で、前年との比較では2.4万人泊の増加(66.7%の増)となった。

③観光消費額（単位：億円）



令和4年の「観光消費額」は3,117億円で、前年との比較では493億円の増加(18.8%の増)となった。

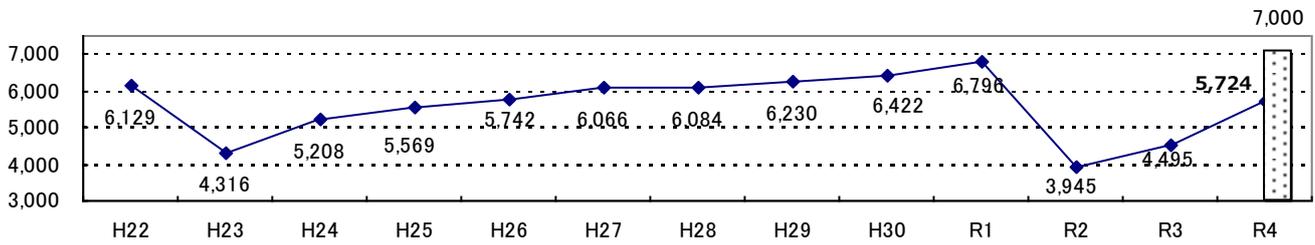
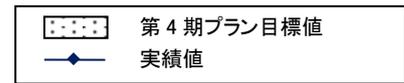
※出典：①—令和4年観光統計概要の速報値

②—観光庁宿泊旅行統計調査(従業者数10人以上の施設)の速報値

③—観光庁観光入込客統計に関する共通基準

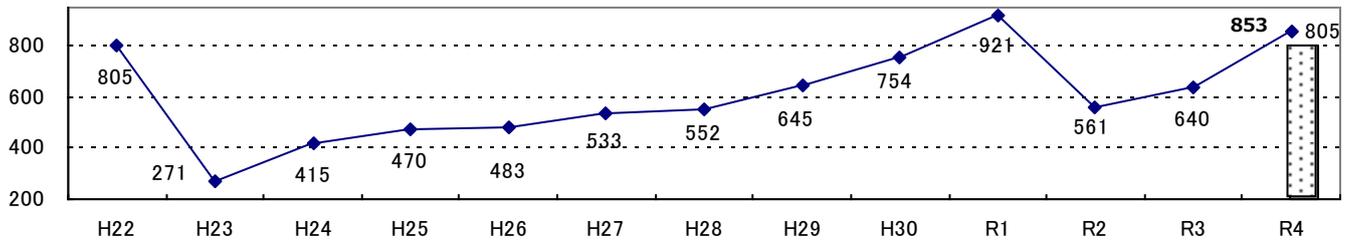
【参考：第4期みやぎ観光戦略プランの数値目標の推移】

①観光客入込数（単位：万人）



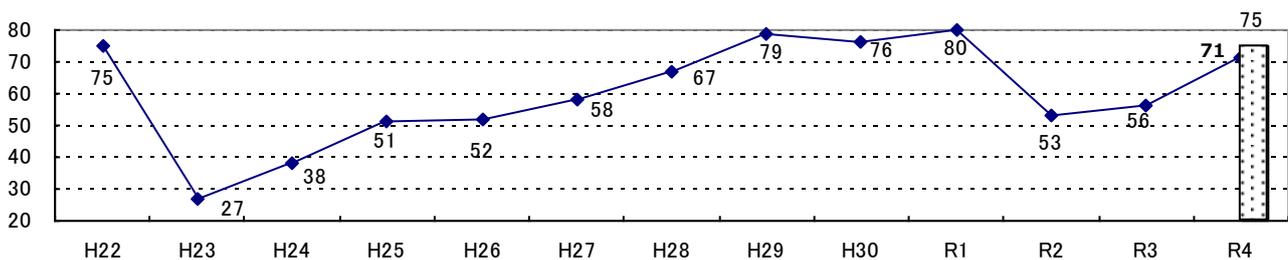
令和4年の「観光客入込数」は5,724万人で、前年との比較では1,229万人の増加(27.3%の増)となった。

②沿岸部（石巻・気仙沼地域）の観光客入込数（単位：万人）



令和4年の「沿岸部(石巻・気仙沼地域)の観光客入込数」は853万人で、前年との比較では213万人の増加(33.3%の増)となった。

③沿岸部（石巻・気仙沼地域）の宿泊観光客数（単位：万人泊）



令和4年の「沿岸部(石巻・気仙沼地域)の宿泊観光客数」は71万人泊で、前年との比較では15万人泊の増加(26.8%の増)となった。

※出典：①～③－令和4年観光統計概要の速報値

5 令和4年度事業の実施状況

東日本大震災からの復旧・復興の12年目及び新たな第5期みやぎ観光戦略プランを策定した令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大きく落ち込んだ観光需要の回復への取組をはじめ、ポストコロナの観光需要を見据えた受入環境整備を推進した。

具体的には、宿泊需要喚起策として全国旅行支援等を実施したほか、国内外からの誘客を促進するため、デジタルマーケティングに基づく戦略的なプロモーションや、東北各県等と連携した招請事業等を展開した。また、受入環境整備として、観光需要の拡大や収益・生産性向上に向け、宿泊施設等の高付加価値化改修への支援を行うと共に、アウトドア需要に対応した公園施設の維持管理や、観光客等が安全に利用できる登山道・遊歩道の計画的な改修に取り組んだ。このほか、震災により人口減少が進んでいる沿岸部の交流人口の拡大に向け、教育旅行体験プログラムの磨き上げ等を行い、教育旅行誘致をはじめとした復興ツーリズムの推進を図った。

上記の取組を含め、基本理念として掲げたウィズコロナ・ポストコロナへの対応とともに、デジタル変革を進め、地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくりに向けて、5つの観光戦略プロジェクトに沿った301事業を実施した。

項目	事業	事業数	事業費計
【回復戦略】	感染症により落ち込んだ観光需要の回復	77事業	90,883,355千円
【成長戦略1】	魅力あふれる観光地づくり	100事業	2,400,663千円
【成長戦略2】	観光産業の体制強化	44事業	2,860,087千円
【成長戦略3】	受入環境の整備促進	30事業	2,282,915千円
【成長戦略4】	戦略的な誘客プロモーション	50事業	15,101,680千円
	合計（再掲含む）	301事業	113,528,700千円
	合計（再掲除く）	135事業	92,981,803千円

本プランでは、感染症の影響による観光需要の回復フェーズを以下の4段階に整理した上で、各段階に応じた対策や季節変動に応じた切れ目のない取組を進めていきます。

なお、感染拡大の波は一定期間繰り返されることが想定されるため、感染の状況に応じ、弾力的に取り組んでいきます。

(取組のイメージ)



(1)感染拡大防止期 …徹底した感染拡大防止対策を講じる時期(積極的助走期間)

(2)県内回復期 …近隣日帰り旅行や県内宿泊旅行による県内流動の回復期

(3)国内回復期 …国内の滞在型旅行による国内流動の回復期

(4)国外からの誘客 …訪日外国人旅行者の呼び戻し・社会構造変化に向けた新たな需要へのシフト  
(ニューノーマルな観光の創出)

回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくりに向けて、観光事業者等が資金繰りや雇用を維持し、感染拡大の波が一定期間繰り返すことを想定しつつ、観光業を回復軌道に乗せ、その後の成長軌道に繋げていくための取組を推進した。

(1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光政策課	6,352	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設の公衆無線LAN機器設置や案内表示の多言語化等に取り組み、観光客の利便性向上や観光リピーターの増加、観光消費額向上を図る。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数8件)	
風評被害等観光客実態調査事業	観光政策課	11,209	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内15地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	
宿泊施設感染防止対策等強化事業	観光政策課	174,165	県内宿泊施設に対して、感染防止対策の徹底や接触リスクの減少に繋がる物品の購入や設備導入に係る支援を実施する。	・ホテル等宿泊施設に対し、消毒液等の購入や、空気清浄機等の導入に係る経費を補助した。(交付決定件数121件)	
安心な観光地づくり推進事業	観光政策課	6,677	PRポスターやステッカー等により、観光事業者等が行う安全・安心の取組について可視化するとともに、優良事例の情報発信を行い、観光客受け入れに向けた機運醸成を図る。	・観光施設1件にポスターとステッカーを発行した。 ・チェックリスト掲載施設を観光連盟ホームページに公開し、情報発信を行った。 ・感染予防対策徹底を促すリーフレット・チラシ、ツールを作成し、観光客に対する普及啓発を行った。 ・県内宿泊施設でクラスターが発生した際に、速やかに実地確認ができるよう体制を整えた。	
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。	
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光プロモーション推進室	88,791	新型コロナウイルス感染症により打撃を受けた県内観光の早期回復のため、戦略的にデジタルを活用し、「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」のプロモーションを実施する。	・インバウンド向け観光デジタルプロモーション推進事業 VISIT MIYAGI 改修 広告等 約16,989,000PV ・首都圏等からのインバウンド誘客促進事業 バナー広告 2,257,800PV 交通広告 東京駅2箇所4週間 東京駅たびコンシェルジュでの商品券引換券配付300枚	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光プロモーション推進室	37,463	感染症の影響により、甚大な影響を受けたインバウンドの早期回復に向けて、東北各県等と連携した積極的な誘客活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博（R4.11.18～11.21）に出展し、入場者数はコロナ前を上回り125,580人となった。</li> <li>現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は488本。合計フォロワー数は約290,000人となった。</li> </ul>	
宮城オルレ推進事業	観光プロモーション推進室	23,351	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内向けには、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら9月17日～11月30日まで「宮城オルレフェア2022」を開催した。 各コースで実施されたイベントへの参加者数：350人以上 延べ利用者数：約5万人（平成30年10月のオープン以降、国内外合計）</li> <li>国外向けには、済州オルレウォーキングフェスティバル代替イベントに現地参加し、パンフレット等を配布。また、台湾にてアジア・トレイルズ・カンファレンスに参加し、宮城オルレのPRを実施。</li> </ul>	
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光プロモーション推進室	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キリシタン巡礼ツアーに係る旅行会社等招請事業の実施</li> <li>貸切バスを活用した周遊観光ツアー造成補助</li> <li>Instagramを活用した投稿キャンペーンの実施</li> </ul>	
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光プロモーション推進室	2,231	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイオンラインメディア等を活用したインバウンド誘客促進事業 招待メディアリーチ数 203,601人</li> <li>タイオンラインメディア等を活用した広告配信事業 広告リーチ数 6,178,411人</li> <li>タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業 造成ツアー21本、造成ツアー総客数558人</li> </ul>	
みやぎキャッシュレス推進ポイント還元事業	富県宮城推進室	949,507	県内サービス業、小売業等の中小企業の店舗において、キャッシュレス決済（QRコード決済等）で購入した消費者に対し、購入額に応じたポイントを還元する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年9月1日から30日までの間、「キャッシュレス決済で！みやぎを応援！最大20%戻ってくるキャンペーン」を開催し、県内中小企業等の店舗約19,000店舗が参加した。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
外国人県民安全・安心確保事業	国際政策課	3,322	新型コロナウイルス感染症に関する情報発信機能の強化及び健康相談窓口（コールセンター）の多言語化により、外国人の不安解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症関連情報の多言語発信（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、やさしい日本語）を実施</li> <li>・新型コロナウイルス感染症受診・相談センター及び副反応相談センター窓口において、外部の多言語コールセンターを活用（委託）し、三者通話での多言語相談を実施（相談件数136件）</li> </ul>	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitter キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「仙南の麺を堪能！白石麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン（10～11月）の実施（参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント）</li> <li>・3県連携（山形、福島）マルシェ（11月）（来場者数約6,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催（4月：道の駅かくだ、5月：おもしろい市場、11月：道の駅村田）</li> <li>・みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進（新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目）</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter キャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加（年度末フォロワー数約1万人）。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテイメント型周遊企画を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型の周遊企画「おでかけむそーらり〜」を実施した。（イベント参加者数：481人）</li> </ul>	
仙南アドベンチャーリズム推進事業所	大河原地方振興事務所	990	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数：280件</li> <li>・モニターイベント実施（2回） 11/19 丸森・角田地区18人（5家族）竹ワークショップ+ネギ収穫 12/10 川崎地区15人（5家族）蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等+初キャンプ体験</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」(秋冬) (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	①特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2022」(R4.7～9月実施)(応募総数1,004通) ②県南地域部会独自企画(秋冬) ・ウォーキングアプリ「aruku&(あるくと)」と連携したウォークラリー(応募総数229通) ③「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・モニターライド(初心者体験ライド)における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施 R4.11.3 七ヶ宿町(参加者13名) R4.11.26 川崎町(参加者17名) R4.12.4 白石市(参加者19名)	
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の観光や食に関して、Twitter(約800件)、Instagram(約500件)、事務所ホームページ(約50件)、ブログ(約60件)等による情報発信を実施(Twitterフォロワー数約1万人、Instagram約600人)	
「安全・安心な観光地づくり」推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	観光関連事業者における新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図るため、R2年度策定の「ガイドライン」の修正等を必要に応じて実施する。	・R2に作成した栗原地域独自の観光事業者向け「新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン」について、当所ホームページやポスターを活用して取組PRを実施した。	
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	482	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、11人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、16名 ・公式Facebook(英語・中国語版)による情報発信を実施した。 英語版 65回、中国語版 64回	
気仙沼地方振興事務所公式Instagramによる情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	35	公式Instagramを開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式Instagramを運営した。 投稿数 151件(総数459) フォロワー増加数 431(総数1,814)	
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア2022」のコースイベント(10/8)開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！」来て見て浜ライン」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	・気仙沼・本吉地域で活躍する人材や観光資源などにスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：7件	
アプリ活用感染症拡大防止支援事業	デジタルみやぎ推進課	— (非予算)	過去にクラスターが発生した業種の店舗などの対象施設を利用する場合に、利用者がメールアドレスを県の電子申請システムに登録することにより、当該施設において感染者が認められた場合、利用者に対し、迅速に感染情報などをメールで伝達する「みやぎお知らせコロナアプリ(MICA)」の提供を行う。	・店舗における感染拡大防止等の対策を支援するために、迅速に感染情報を伝達するアプリを運用した。(令和4年11月17日で運用停止) 利用施設数 1,354施設(前年度末から40施設増) 延べ利用者登録数 65,750人(前年度末から15,404人増)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
感染症発生対策事業	疾病・感染症対策課	13,845,540	旅行者を含めた一般の方から新型コロナウイルス感染症に関する健康相談を受け付けるための電話相談窓口（受診・相談センター）の運営を行うとともに、感染者発生時は積極的疫学調査や入院措置等により感染拡大防止を図る。	<p>受診・相談センターの運営を行ったほか、感染症患者の検査及びまん延防止のための積極的疫学調査等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談対応等件数 198,776件</li> <li>・PCR検査件数 860,412件</li> </ul>	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	150	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約3年ぶりとなるクルーズ船の寄港受入を実施（R4.11.3）。また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社4者に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。</li> </ul>	

## (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
観光地域づくり チャレンジ事業	観光政策課	1,997	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地域づくりを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南圏域及び隣接県（山形・福島）のひな祭りイベントを主とした日帰りバスツアーの造成・実施 2回開催、計49名参加</li> <li>・石巻圏域の観光と食の魅力、震災伝承を含めた石巻圏域の特色を生かしたバスツアーの造成・実施 4回開催、95名参加</li> <li>・気仙沼圏域のアクティビティ、震災伝承施設やグルメの体験レポートの作成・情報発信 体験レポートの作成（神割崎キャンプ場、宮城オルレ、震災遺構、伝承館、牡蠣、わかめ等のグルメ） 「S-Style」のWEBサイトに掲載</li> </ul>	
観光戦略推進事業	観光政策課	9,999	地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品を創出するため、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、コンテンツの造成から販路開拓までを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗駒山麓ジオパークやラムサール条約湿地等の豊かな自然環境を活かしたアドベンチャープログラムの旅行商品造成や地元農産物を使ったアドベンチャートラベル用の加工食品の開発販売を実施 アドベンチャートラベル商品：5種類造成 加工食品：6種類開発</li> </ul>	
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	
県内教育旅行等 支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内での教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	
風評被害等観光 客実態調査事業	観光政策課	11,209	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要観光地での観光客（外国人観光客含む）へのアンケート調査（県内15地点・四半期毎）及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>	○
みやぎ観光戦略 受入環境基盤整備 事業	観光政策課	162,497	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒廃した県内の登山道や遊歩道（蔵王、栗駒、気仙沼等）の整備等を行ったほか、広域観光案内板の修正等を行った。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宿泊施設感染防止対策等強化事業	観光政策課	174,165	県内宿泊施設に対して、感染防止対策の徹底や接触リスクの減少に繋がる物品の購入や設備導入に係る支援を実施する。	・ホテル等宿泊施設に対し、消毒液等の購入や、空気清浄機等の導入に係る経費を補助した。(交付決定件数 121件)	○
観光地の空間的的魅力創出事業	観光政策課	72,574	地域・産業の稼ぐ力の回復・強化を図るため、市町村が実施する観光施設の改修費等への嵩上げ補助により、地域一体となった高付加価値化に向けた取組を支援する。	・鳴子温泉郷の観光事業者等が実施した高付加価値化のための宿泊・観光施設の改修又は廃屋撤去等の経費について、県から嵩上げ補助を行った。 交付決定件数:31施設(観光施設改修:20施設、宿泊施設改修:10施設、廃屋の撤去:1施設)	
安心な観光地づくり推進事業	観光政策課	6,677	PRポスターやステッカー等により、観光事業者等が行う安全・安心の取組について可視化するとともに、優良事例の情報発信を行い、観光客受け入れに向けた機運醸成を図る。	・観光施設1件にポスターとステッカーを発行した。 ・チェックリスト掲載施設を観光連盟ホームページに公開し、情報発信を行った。 ・感染予防対策徹底を促すリーフレット・チラシ、ツールを作成し、観光客に対する普及啓発を行った。 ・県内宿泊施設でクラスターが発生した際に、速やかに実地確認ができるよう体制を整えた。	○
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光政策課	29,964	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	・宮城県内のワーケーション情報を一元化して発信するWEBサイトとして「Miwork 宮城」を開設し、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等の情報を掲載することで、宮城のワーケーションの普及促進を図った。 掲載施設数:118件	
観光事業者原油高騰緊急支援事業	観光政策課	19,900	コロナ禍の影響や原油等価格高騰の影響を受けている県内の遊覧船運営事業者及びスキー場運営事業者に対し、事業継続を支援する。	・県内の遊覧船運営事業者やスキー場運営事業者に対して、保有台数等に応じた支援金を交付した。(交付決定件数16件)	
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 主な実績 「150周年だヨ!全員集合!みやぎ、さあ、いこう!スタンプラリー」参加総数7,369人 「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10 「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人 宮城県公式SNS運営 Instagram投稿数50(フォロワー数約4,000人増)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTube で配信を行った。 パンパー広告表示回数: 17,214,137 回 インストリーム広告視聴回数: 1,622,564 回</li> <li>・県制 150 周年記念事業の一環として周遊企画を行った。 「巡ってもらおう 素敵な賞品!みやぎ、さあ、いこう!ポストを旅するキャンペーン」 応募総数 783 人 リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」 最終参加者数 2,513 人</li> <li>・7 航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。</li> </ul>	
宿泊・観光需要創出事業	観光プロモーション推進室	12,779,575	新型コロナウイルス感染症の影響により打撃を受けた、宿泊・観光事業者への経営支援につなげるほか、落ち込んだ観光・宿泊需要の早期回復を図るため、宿泊割引等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民宿泊割 &lt;実施期間&gt; R3.10.15~R4.10.10 &lt;内容&gt; 宿泊代金の割引(宿泊代金の2分の1、1泊当たり最大5,000円)及び地域限定クーポン券の配布(1泊当たり最大2,000円分)</li> <li>&lt;実績&gt; 約96万人泊</li> <li>・全国旅行支援 &lt;実施期間&gt; ①R4.10.11~R4.12.27 ②R5.1.10~R5.7.21 &lt;内容&gt; ①割引率:40%、割引上限額:交通付商品8,000円/交通付商品以外5,000円 クーポン上限額:平日3,000円/休日1,000円 ②割引率:20%、割引上限額:交通付商品5,000円/交通付商品以外3,000円 クーポン上限額:平日2,000円/休日1,000円※電子クーポン</li> <li>&lt;実績(R5.3末時点)&gt; 約136万人泊</li> </ul>	
誘客・周遊促進による交通事業者支援事業	観光プロモーション推進室	28,472	バス・レンタカー・タクシー・旅客船を活用した旅行商品の造成・運行に係る経費の助成や仙台国際空港(株)に就航している航空事業者への委託による誘客促進キャンペーンを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス、レンタカー、タクシー、旅客船を活用した旅行商品の造成・運行経費助成 参加旅行会社 14 者</li> <li>・航空旅行キャンペーン 7 者への委託により 17 路線(札幌 4、名古屋 3、大阪 4、神戸 1、広島 2、出雲 1、福岡 2) で実施</li> </ul>	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼ワークスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。</li> </ul>	
みやぎキャッシュレス推進ポイント還元事業	富県宮城推進室	949,507	県内サービス業、小売業等の中小企業の店舗において、キャッシュレス決済(QRコード決済等)で購入した消費者に対し、購入額に応じたポイントを還元する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年9月1日から30日までの間、「キャッシュレス決済で!みやぎを応援!最大20%戻ってくるキャンペーン」を開催し、県内中小企業等の店舗約19,000店舗が参加した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
新型コロナウイルス感染症対応事業者支援市町村補助金	富県宮城推進室	2,042,194	市町村が地域の実状等に応じて実施する事業者支援に対して、補助を行う。(補助率10/10) (1)事業継続支援、(2)家賃補助支援、(3)各種相談・申請支援、(4)制度周知支援等	・35全市町村が当該補助金を活用し、合計62事業を実施した。内訳は以下の通り。 事業継続支援 56事業 相談申請支援 1事業 制度周知支援 3事業 感染症予防対策 2事業	
中小企業経営安定資金等貸付金(コロナ対応分)	商工金融課	53,728,000	新型コロナウイルス感染症により売上高が減少した中小企業者に対して、民間金融機関を活用した資金繰り支援を実施するため、取扱金融機関に対し預託原資の貸し付けを行う。	・新型コロナウイルス感染症により売上高が減少した中小企業者に対して、民間金融機関を活用した資金繰り支援を実施した。 融資件数 675件 融資金額 14,241,489千円	
被災中小企業者対策資金利子補給事業補助	商工金融課	3,483,520	県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行う。	・県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行った。 利子補給対象融資件数 31,859件 利子補給対象融資金額 296,606,135千円 利子補給金額 3,444,023千円	
商店街ステップアップ支援事業	商工金融課	27,895	感染症の影響を受けた商店街等の集客促進、売上増加を図るため、商店街団体等が行う感染対策を踏まえて実施するイベントやデジタル化等地域活性化の取組を支援する。	・商店街のデジタル化や交流スペースの整備(革新発展事業)のほか、感染対策を踏まえて実施する集客回復事業を実施した。 革新発展事業 8件 20,977千円 集客促進事業 10件 6,918千円	
まちなか活性化パートナー支援事業	商工金融課	24,872	感染症の影響を受けた商店街等まちなかの活性化を図るため、市町村や商店街等と連携して取り組む民間企業等からの提案により、首都圏等からの新しい人の流れの創出やデジタル化により地域課題を解決する取組のモデルケースを構築する。	・空き店舗を活用したコンテンツ整備や先進的なデジタル技術を活用した地域課題解決手法についての調査検討等に対する支援を実施した。 6件 24,872千円	
中小企業等再起支援事業	中小企業支援室	1,086,068	新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、原油価格・物価高騰の影響によって業績が悪化し、経営の維持向上に支障をきたしている中小企業・小規模事業者が、早期の再起を図るために行う、販路開拓や生産性向上等の取組を支援する。	・販路開拓、生産性向上、感染防止対策に取り組む中小企業・小規模事業者に対し、中小企業等再起支援事業補助金を交付し、事業者負担の軽減に関する支援を行った。 <一次募集> 申請受付期間：4月1日～5月31日 支援件数：984件 支援額：799,247千円 <二次募集> 申請受付期間：7月25日～8月10日 支援件数：209件 支援額：165,362千円 <合計> 支援件数：1,193件 支援額：964,609千円	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
中小企業等事業再構築支援事業	中小企業支援室	536,907	新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって業況が悪化し、経営の維持向上に支障をきたしている県内の中小企業等が、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するため、持続可能な経営形態への転換など事業の再構築を図る取組を支援する。	①国が実施する「中小企業等事業再構築支援促進補助金」の採択事業者に対し、中小企業等事業再構築支援補助金（上乘せ補助）を交付し、事業者負担の軽減に関する支援を行った。 申請期間：4月18日～2月10日 支援件数：88件 支援額：330,025千円 ②国の「事業再構築補助金」を活用せず事業再構築に取り組む県内の中小企業等に対して、中小企業等事業再構築支援補助金を交付し、持続可能な経営形態への転換など事業の再構築に関する支援を行った。 申請期間：4月18日～5月31日 支援件数：32件 支援額：115,021千円	
みやぎ人財活躍推進プロジェクト事業	雇用対策課	143,037	女性や高齢者等の潜在的労働力の掘り起こしから就職までをトータルかつきめ細かにサポートする雇用支援拠点の設置と県内企業の受入環境の整備支援を実施し、求人・求職側の双方から多様な人材の活躍を推進することで、企業の競争力の源泉である「人財」の確保を進め、富県宮城の実現を雇用政策面から支える。	・多様な人材の活躍を推進するため、就職支援拠点を設置し、各種支援を実施した結果829人の就職に繋がったほか、地域企業を牽引するフラグシップ企業の育成に向けた13社の伴走支援により職場環境の改善に繋がった。	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitterキャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	①食のブランド化事業 ・「仙南の麺を堪能！白石温麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン（10～11月）の実施（参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント） ・3県連携（山形、福島）マルシェ（11月）（来場者数約6,000人） ・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催（4月：道の駅かくた、5月：おもしろいし市場、11月：道の駅村田） ・みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進（新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・Twitterキャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加（年度末フォロワー数約1万人）。 ・「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型の周遊企画「おでかけむそーらり〜」を実施した。(イベント参加者数:481人)	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	990	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数:280件 ・モニターイベント実施(2回) 11/19 丸森・角田地区18人(5家族) 竹ワークショップ+ネギ収穫 12/10 川崎地区15人(5家族) 蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等+初キャンプ体験	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」(秋冬) (3)「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業	①特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ!2022」(R4.7~9月実施)(応募総数1,004通) ②県南地域部会独自企画(秋冬) ・ウォーキングアプリ「aruku&(あるくと)」と連携したウォークラリー(応募総数229通) ③「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業 ・モニターライド(初心者体験ライド)における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施 R4.11.3 七ヶ宿町(参加者13名) R4.11.26 川崎町(参加者17名) R4.12.4 白石市(参加者19名)	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	- (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の観光や食に関して、Twitter(約800件)、Instagram(約500件)、事務所ホームページ(約50件)、ブログ(約60件)等による情報発信を実施(Twitterフォロワー数約1万人、Instagram約600人)	○
仙台圏域内観光コンテンツの魅力再発見・再発信事業	仙台地方振興事務所	460	圏域の魅力が存分に伝わる写真や動画を撮影し、また、それらを活用した広報を行うことで、コロナ禍におけるマイクロリズム機運に対応して、近隣住民が本圏域の魅力を再発見し、訪れる契機とする。 加えて、コロナ収束後の観光需要を見据えた情報発信により、本圏域が数ある観光地に出遅れることなく観光誘客を押し進めるための環境を整える。	仙台圏域の観光コンテンツの魅力を各種媒体で発信するため、それに用いる素材写真の撮影及び動画の作成を行った。(32コンテンツ) 撮影した写真について、岩沼市の「竹駒神社の夏詣」は、県の夏の観光ポスターに採用されている。市町村等において、SNSや観光ガイドブック等で、延べ20回活用されている。 また、当該撮影データを利用する際の利用規約を作成するとともに、撮影データを当所HPにアップロードし、規約に同意いただいた場合には、自由に利用できるようにした。 動画については、広報課YouTubeへアップロードするとともに、観光イベント等で放映することにより、管内の魅力について周知を図った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
地元飲食店応援プロジェクト in 広域仙台都市圏	仙台地方振興事務所	— (非予算)	新型コロナウイルスにより打撃を受けている管内飲食店を支援するため、市町村からテイクアウト・デリバリー対応店舗等の情報を収集し、県ホームページをはじめとした各種広報媒体で広く周知する。	管内市町村より提供されたテイクアウト・デリバリー対応店舗等の情報を当所ホームページに掲載することで周知を図った。	
大崎地域飲食店等支援事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、集客や売上の面で深刻な影響を受けている飲食店を支援するため、大崎地域のテイクアウトやデリバリーサービスを提供する飲食店情報を収集し、県ホームページなどの各種媒体で広く周知する。また、大崎合同庁舎に勤務する職員に対し、地元飲食店等の商品斡旋を継続的に実施する。	大崎合同庁舎に勤務する職員を対象とした地元飲食店等の商品斡旋を32回(総販売額2,287,680円)実施した。	
大学ゼミ合宿等の誘致による合宿観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,435	閑散期の観光客獲得を目指して、大学ゼミやサークル等の合宿誘致に係るプロモーション活動を行う。	・令和3年度に実施した大学ゼミやサークル等の合宿誘致に係るプロモーション活動の成果を活用して、若年層(～30代)を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。 取組数3件、参加者計25名	
観光と食の魅力発信支援事業	東部地方振興事務所	569	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等において情報発信することにより、地域食材等の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食のPRを目的として、福島県国見町において、「石巻地域の物産と観光展 in あつかしの郷」を開催した。 日数 10日間、出店数 延べ6店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港等のイベントと連携した観光PR、ホームページやSNS、ロビーショーケースにおけるイベントや特産品の情報を発信した。 ロビーショーケース 年4回更新 SNS(3媒体)投稿数 603件	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	1,118	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・マンガタンライナーの企画と連携し、「三陸地域マルシェ in 石巻駅」を開催した。 出店数 14店舗、来場者 約600人 ・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成・配布した。 発行部数 3万部 ・南三陸町において、新たな震災伝承施設やアクティビティ等の取組を学ぶ研修会を開催した。 研修会 1回 18人	
地域周遊型観光・伝承バスツアー事業	東部地方振興事務所	638	東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施することで、震災伝承の推進、一層の観光振興を図る。	・東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施した。 2コース 全4回、参加者 計95人	
栗原と連携した農泊等の受入体制整備事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	204	登米地域と栗原地域における農泊等の運営者又は開業を検討している方を対象に、R3に実施した研修会で講師を務めた方が所属する団体の取組事例を学び、現地視察を実施するとともに、現地の施設運営者と交流ができるワークショップを実施する。	・登米地域と栗原地域における農泊等の運営者及び農泊等の開業を検討している者を対象に、農泊やグリーン・ツーリズムにおいて先駆的な取組を実施している岩手県遠野市の「遠野旅の産地直売所」視察、農泊施設での宿泊体験、現地ワークショップを実施した。参加人数は9名(事務局含む)。(R4.6月8日～9日)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
登米の農泊等のPR強化事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,131	登米地域内の体験コンテンツの掘り起こしと、体験コンテンツ提供者の整理を行う。また、登米地域の農泊等で体験可能なコンテンツを紹介する動画と写真の撮影を行い、事務所のHPやSNS、リーフレット等の広告媒体でのPRに活用できる素材づくりを実施する。	・農泊等での体験コンテンツを紹介する動画及び写真の撮影を行うとともに、その写真を活用した農泊パンフレット（農泊等の施設及び農泊者がおすすめするスポットを紹介）の作成・配布（作成部数：3,000部）、WEBサイト及びSNSを活用したPRを実施した。	
登米圏域交流人口拡大推進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,051	現在ある魅力が引き立ち、地域の方々にとって利点のある、継続可能なイベントの確立を目標として、登米地域内でのイベントの検討、企画及び開催を行う。また、SNS（公式SNS「ほっとめーしょん」）を活用した積極的な情報発信等に取り組み、登米圏域の交流人口拡大を図る。併せて、地元の飲食店と協働し、食の宝庫である登米市の魅力ある食材を使った料理のPR活動を実施する。	①登米市内周遊誘客促進イベントの開催 現地で謎解きを行いながら登米市内を周遊するイベント「県制150周年記念トメ旅！2022」を開催したところ160名の応募があった。（R4.9月28日～R5.2月28日） ②登米市産食材のPR活動 地元飲食店3店舗と協働し、魅力ある登米市産食材を使った料理を提供する「2023 登米の冬 おなかもこころもほっこりフェア」を開催したところ約160名の参加があった。（R5.2月1日～R5.2月28日） ③登米エリアドライブマップ作成・配架 女性向けを意識した内容のドライブマップを作成し、市内外の観光物産施設や交通拠点等に配架し、登米地域のPRを行った。（作成部数：5,000部）	
気仙沼地方振興事務所公式Instagramによる情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	35	公式Instagramを開設し、圏域の観光資源の魅力効果を効果的に情報発信する。	・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式Instagramを運営した。 投稿数 151件（総数459） フォロワー増加数 431（総数1,814）	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア2022」のコースイベント（10/8）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	○
地域の課題解決型観光戦略推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,980	気仙沼・南三陸地域にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムを組み合わせた旅行商品の企画・造成及び販売を行うことで冬期における誘客促進と観光消費の増加を目指す。	・気仙沼・南三陸地域等にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムとを組み合わせた旅行商品の企画・造成、ツアーレポートの情報発信、事業評価・検証を業務委託により実施した。 ①ツアー造成 気仙沼 2回（12月、2月）、参加数9名 南三陸 1回（2月）、参加数5名 ②ツアーレポート 気仙沼、南三陸計8回配信	
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！」来て見て浜ライン”」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	・気仙沼・本吉地域で活躍する人材や観光資源などにスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：7件	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	660	当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信するため、業務委託により実施した。</li> <li>配信回数：3回（震災伝承、グルメ、アクティビティ&amp;キャンプ）</li> </ul>	
インターネット広報事業	広報課	3,903	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間48件掲載した。また、トップページ上部に掲載される大バナーについては、新型コロナに関するお知らせに特化して掲載することとし、そのほかの事業については事業PRバナーに年間20件掲載した。</li> <li>Facebookは、年間316件投稿し、フォロワー数は1,455人増の13,793人となった。</li> <li>メルマガ・みやぎは、年間49回配信し、年度末の登録者数は6,535人となった。</li> </ul>	
宮城県戦略的の魅力発信事業	広報課	23,430	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国放送網のテレビや雑誌等のトラディショナルメディアやネットメディアを活用したPRパブリシティにより、観光・食等の宮城の様々な魅力を発信し、テレビ7本、雑誌及びWEB雑誌6本の計13本の露出を獲得した。</li> </ul>	
サテライトオフィス設置推進事業	地域振興課	5,007	宮城県内にサテライトオフィスを設置した宮城県外に所在する企業・大学に対し、オフィスの賃料や家賃補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレワークの実施場所を新たに宮城県内に設ける企業等に対して、補助金を交付した。</li> </ul>	
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、従来のFacebookに加え、新たにInstagramを開設した。東京事務所ホームページと各SNSを活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。</li> <li>Facebook及びInstagramでの情報発信88件</li> </ul>	
仙台空港国内線リカバリープロモーション事業	空港臨空地域課	33,041	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により減少した仙台空港の航空需要の回復と社会経済活動の再開にあわせて、就航地先や県内及び隣県において航空路線のPRにより路線の認知を高め、仙台空港利用者の増加を図る。</li> <li>交通広告等による就航先でのプロモーション</li> <li>県内及び隣県での各種メディアを活用したプロモーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により減少した航空需要の回復を目的としたプロモーションの実施</li> <li>テレビCM 放送本数 831本（宮城・岩手・山形・福島）</li> <li>テレビ番組（OH! バンデス等）</li> <li>県内及び隣県（岩手・山形・福島）並びに就航地先のデジタルサイネージへの掲出</li> <li>ガイドブック（まっぷる）を河北新報朝刊にて折込配布（県内34,050世帯）及び県内ファミリーマートへの配架</li> </ul>	
仙台空港国際線航空需要回復支援事業	空港臨空地域課	7,584	新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年9月時点で国際線は全線休止となっているが、国際線の再開に合わせて、若者を対象にパスポートの取得費用の一部を助成する「仙台空港国際線利用促進キャンペーン」を実施し、海外旅行意欲の喚起と仙台空港国際線のPRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際線運航再開に合わせ、若者を対象としたパスポート取得費用の一部を助成するキャンペーンを実施。また、新聞広告やデジタルサイネージを活用し、運航再開を幅広く周知した。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙台空港国際線 路線再開支援事 業	空港臨空地域 課	7,200	新型コロナウイルス感染症の影響により運休している国際路線の維持と早期再開を支援することにより、本県の訪日外国人旅行者数の回復を目指すため、運航を再開した航空会社に対し国際定期路線の再開した月から3ヶ月間のグランドハンドリング（地上支援業務）に係る実績額の3分の2を補助する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台空港国際線路線再開支援事業の実施（国際線航空会社が路線を再開する場合のグランドハンドリング費用の補助）。</li> <li>・運航再開した航空会社に対し、グランドハンドリング費用実績額の2/3を補助した。</li> </ul>	

回復戦略 合計 77事業 90,883,355千円

## 成長戦略1 魅力あふれる観光地づくり

宮城県が誇る食・自然・歴史・文化等の観光資源の発掘・磨き上げを行ったほか、デジタル技術を活用した観光コンテンツの造成により、来訪意欲の増進に取り組んだ。

また、地域住民の郷土への誇りや愛着の意識向上に向け、教育分野と連携し、未来を担う子どもたちにもふるさとに関する教育等の推進を図ったほか、東日本大震災の風化防止と震災の教訓を次世代へ伝承するため、積極的な情報発信を行った。

### (1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光政策課	4,278	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な個所には新しい案内看板を設置する。	・七ヶ宿町などの東北自然歩道における案内標識、指導標識、解説標識等の整備を行った。	
観光施設再生・立地支援事業	観光政策課	0	震災により被害を受けた観光事業者が行う施設・設備等の復旧に対して、経費の一部を支援する。	・募集を行い、問い合わせ等に都度対応した。(申請件数は、再生支援型、立地支援型いずれも0件)	
沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業	観光政策課	290,660	沿岸部に集客力の高い宿泊施設や観光集客施設を設置する事業者に対して補助金を交付することにより、宿泊などを伴う消費効果の高い観光客を誘致し、沿岸部の活性化を図る。	・令和2年度からの繰越事業(観光集客施設型2件)が完了した。	
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光政策課	6,352	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設の公衆無線LAN機器設置や案内表示の多言語化等に取り組み、観光客の利便性向上や観光リピーターの増加、観光消費額向上を図る。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数8件)	○
観光地域づくりチャレンジ事業	観光政策課	1,997	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地づくりを実施する。	・仙南圏域及び隣接県(山形・福島)のひな祭りイベントを主とした日帰りバスツアーの造成・実施 2回開催、計49名参加 ・石巻圏域の観光と食の魅力、震災伝承を含めた石巻圏域の特色を生かしたバスツアーの造成・実施 4回開催、95名参加 ・気仙沼圏域のアクティビティ、震災伝承施設やグルメの体験レポートの作成・情報発信 体験レポートの作成(神割崎キャンプ場、宮城オルレ、震災遺構、伝承館、牡蠣、わかめ等のグルメ) 「S-Style」のWEBサイトに掲載	○
観光戦略推進事業	観光政策課	9,999	地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品を創出するため、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、コンテンツの造成から販路開拓までを行う。	・栗駒山麓ジオパークやラムサール条約湿地等の豊かな自然環境を活かしたアドベンチャープログラムの旅行商品造成や地元農産物を使ったアドベンチャートラベル用の加工食品の開発販売を実施 アドベンチャートラベル商品:5種類造成 加工食品:6種類開発	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	○
県内教育旅行等支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内での教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	○
フィルムコミッション推進事業	観光政策課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。</li> <li>「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数189件、撮影実績31件</li> </ul>	
風評被害等観光客実態調査事業	観光政策課	11,209	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内15地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光政策課	162,497	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒廃した県内の登山道や遊歩道(蔵王、栗駒、気仙沼等)の整備等を行ったほか、広域観光案内板の修正等を行った。</li> </ul>	○
観光地の空間的的魅力創出事業	観光政策課	72,574	地域・産業の稼ぐ力の回復・強化を図るため、市町村が実施する観光施設の改修費等への嵩上げ補助により、地域一体となった高付加価値化に向けた取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴子温泉郷の観光事業者等が実施した高付加価値化のための宿泊・観光施設の改修又は廃屋撤去等の経費について、県から嵩上げ補助を行った。</li> <li>交付決定件数:31施設(観光施設改修:20施設、宿泊施設改修:10施設、廃屋の撤去:1施設)</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。</li> </ul>	
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> </ul> <p>主な実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「150周年だヨ！全員集合！みやぎ、さあ、いこう！スタンプラリー」参加総数7,369人</li> <li>「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10</li> <li>「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数50（フォロワー数約4,000人増）</li> </ul>	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光プロモーション推進室	88,791	新型コロナウイルス感染症により打撃を受けた県内観光の早期回復のため、戦略的にデジタルを活用し、「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」のプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド向け観光デジタルプロモーション推進事業 VISIT MIYAGI 改修 広告等 約16,989,000PV</li> <li>・首都圏等からのインバウンド誘客促進事業 バナー広告 2,257,800PV 交通広告 東京駅2箇所4週間 東京駅たびコンシェルジュでの商品券引換券配付300枚</li> </ul>	○
外国人観光客誘致促進事業	観光プロモーション推進室	37,463	感染症の影響により、甚大な影響を受けたインバウンドの早期回復に向けて、東北各県等と連携した積極的な誘客活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博（R4.11.18～11.21）に出展し、入場者数はコロナ前を上回り125,580人となった。</li> <li>・現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>・誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は488本。合計フォロワー数は約290,000人となった。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宮城オルレ推進事業	観光プロモーション推進室	23,351	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内向けには、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら9月17日～11月30日まで「宮城オルレフェア2022」を開催した。</li> <li>各コースで実施されたイベントへの参加者数：350人以上</li> <li>延べ利用者数：約5万人（平成30年10月のオープン以降、国内外合計）</li> <li>・国外向けには、済州オルレウォーキングフェスティバル代替イベントに現地参加し、パンフレット等を配布。また、台湾にてアジア・トレイルズ・カンファレンスに参加し、宮城オルレのPRを実施。</li> </ul>	○
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTubeで配信を行った。</li> <li>バンパー広告表示回数：17,214,137回</li> <li>インストリーム広告視聴回数：1,622,564回</li> <li>・県制150周年記念事業の一環として周遊企画を行った。</li> <li>「巡ってもらおう 素敵な賞品！みやぎ、さあ、いこう！ポストを旅するキャンペーン」 応募総数783人</li> <li>リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」 最終参加者数2,513人</li> <li>・7航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。</li> </ul>	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光プロモーション推進室	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリシタン巡礼ツアーに係る旅行会社等招請事業の実施</li> <li>・貸切バスを活用した周遊観光ツアー造成補助</li> <li>・Instagramを活用した投稿キャンペーンの実施</li> </ul>	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光プロモーション推進室	2,231	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイオンラインメディア等を活用したインバウンド誘客促進事業</li> <li>招待メディアリーチ数 203,601人</li> <li>・タイオンラインメディア等を活用した広告配信事業</li> <li>広告リーチ数 6,178,411人</li> <li>・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業</li> <li>造成ツアー21本、造成ツアー総客数558人</li> </ul>	○
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光政策課・観光プロモーション推進室	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。</li> <li>東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施</li> <li>台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宮城・山形合同観光PR事業	観光プロモーション推進室	— (非予算)	東北自動車道安達太良サービスエリア等において、山形県と合同で臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の広域観光ルート確立推進事業を展開した。</li> <li>貸切バスを活用した周遊観光ツアーの造成等支援</li> <li>宮城・山形インスタグラム/ムービーコンテスト</li> <li>宮城・山形合同観光PRイベント等</li> </ul>	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼ワーキングスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。</li> </ul>	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	794	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、173人が受験したほか、出前講座を6回開催し、204人が参加した。	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitterキャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「仙南の麺を堪能！白石温麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン(10～11月)の実施(参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント)</li> <li>3県連携(山形、福島)マルシェ(11月)(来場者数約6,000人)</li> <li>管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催(4月:道の駅かくた、5月:おもしろいし市場、11月:道の駅村田)</li> <li>みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進(新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目)</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Twitterキャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加(年度末フォロワー数約1万人)。</li> <li>「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテイメント型周遊企画を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテイメント型の周遊企画「おでかけむそーらり〜」を実施した。(イベント参加者数:481人)</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	990	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数：280件 ・モニターイベント実施（2回） 11/19 丸森・角田地区 18人（5家族） 竹ワークショップ+ネギ収穫 12/10 川崎地区 15人（5家族）蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等+初キャンプ体験	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」（夏） (2)独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」（秋冬） (3)「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業	①特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2022」（R4.7～9月実施）（応募総数1,004通） ②県南地域部会独自企画（秋冬） ・ウォーキングアプリ「aruku&（あるくと）」と連携したウォークラリー（応募総数229通） ③「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業 ・モニターライド（初心者体験ライド）における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施 R4.11.3 七ヶ宿町（参加者13名） R4.11.26 川崎町（参加者17名） R4.12.4 白石市（参加者19名）	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の観光や食に関して、Twitter（約800件）、Instagram（約500件）、事務所ホームページ（約50件）、ブログ（約60件）等による情報発信を実施（Twitterフォロワー数約1万人、Instagram約600人）	○
キャンパー誘客・地元農産物消費促進事業	北部地方振興事務所	1,581	大崎地域の農産物直売所とキャンプ場の利用を連動させるキャンペーンを実施し、交流人口と大崎地域内の農産物購入人口の増加を図る。また、各キャンプ場等のインスタ映え画像をSNSで発信することにより、誘客促進を図る。	・対象の大崎地域のキャンプ場等を利用し、かつ対象の大崎地域の農産物直売所を利用して応募した方に賞品が当たるキャンペーンを実施した。 ・大崎地域の魅力あふれる写真を投稿した方に賞品が当たるキャンペーンを同時に実施した。	
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光・物産・郷土文化等の情報発信と誘客促進を目的とした「県際マルシェ」を開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	
くりはらマルシェ開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	103	栗原地域の物産品のPR販売と合わせて観光PRを実施し、栗原地域への誘客促進を図る。	・県庁1階ロビー（2日間、4事業者）、苔ふれあいフェア（1日、6事業者）、栗原合同庁舎（1日、9事業者）において、くりはらマルシェを開催し、商品PRと販路拡大を図った。	
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	111	観光客に栗原の魅力を伝え、心温かく案内できる観光ガイドを養成するための講座を開設する。 地域の方々が地元の魅力を再認識する機会を創出し、地域内旅行（マイクロリズム）の機運醸成を図る。	・シビックプライドの醸成を目的としたセミナーを開催した。 セミナー5日（6コマ）、受講者18名	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
栗原地域周遊モデルコースづくりとモニターツアー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗原の自然や食、様々な観光施設や体験型コンテンツ、農泊・民泊での宿泊体験等を組み合わせ、宿泊を伴う周遊モデルコースの開発とPRを行う。また、開発したコースによる体験モニターツアーを実施する。	・シビックプライド醸成セミナーにおいて、参加者が観光モデルコースを企画提案し、体験モニターツアーにより検証した。 モデルコース提案 3コース モニターツアー 1回(参加者9名)	
大学ゼミ合宿等の誘致による合宿観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,435	閑散期の観光客獲得を目指して、大学ゼミやサークル等の合宿誘致に係るプロモーション活動を行う。	・令和3年度に実施した大学ゼミやサークル等の合宿誘致に係るプロモーション活動の成果を活用して、若年層(～30代)を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。 取組数3件、参加者計25名	○
体験・宿泊型観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,312	体験や宿泊を伴う滞在型観光を推進するため、農泊・民泊先進地研修会の開催や、開業・経営の伴走型支援を行う。	・農泊民泊運営者等への開業・経営支援として、先駆的取組を行っている岩手県遠野地域において現地視察等を行った(登米地域事務所と連携)。 研修会 1回 参加者 9名(事務局含む) ・農泊・民泊等開業志向者の掘り起こし、農泊等事業者への訪問・助言を実施したほか、事業者同士のネットワークづくりにつながるイベントを開催した。 開業応援講座 1回 参加者 6名	
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキングMAPや、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	
観光と食の魅力発信支援事業	東部地方振興事務所	569	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等において情報発信することにより、地域食材等の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食のPRを目的として、福島県国見町において、「石巻地域の物産と観光展 in あつかしの郷」を開催した。 日数 10日間、出店数 延べ6店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港等のイベントと連携した観光PR、ホームページやSNS、ロビーショーケースにおけるイベントや特産品の情報を発信した。 ロビーショーケース 年4回更新 SNS(3媒体)投稿数 603件	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	1,118	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・マンガタンライナーの企画と連携し、「三陸地域マルシェ in 石巻駅」を開催した。 出店数 14店舗、来場者 約600人 ・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成・配布した。 発行部数 3万部 ・南三陸町において、新たな震災伝承施設やアクティビティ等の取組を学ぶ研修会を開催した。 研修会 1回 18人	○
地域周遊型観光・伝承バスツアー事業	東部地方振興事務所	638	東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施することで、震災伝承の推進、一層の観光振興を図る。	・東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施した。 2コース 全4回、参加者 計95人	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
栗原と連携した農泊等の受入体制整備事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	204	登米地域と栗原地域における農泊等の運営者又は開業を検討している方を対象に、R3に実施した研修会で講師を務めた方が所属する団体の取組事例を学ぶ、現地視察を実施するとともに、現地の施設運営者と交流ができるワークショップを実施する。	・登米地域と栗原地域における農泊等の運営者及び農泊等の開業を検討している者を対象に、農泊やグリーン・ツーリズムにおいて先駆的な取組を実施している岩手県遠野市の「遠野旅の産地直売所」視察、農泊施設での宿泊体験、現地ワークショップを実施した。参加人数は9名(事務局含む)。(R4.6月8日～9日)	○
登米の農泊等のPR強化事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,131	登米地域内の体験コンテンツの掘り起こしと、体験コンテンツ提供者の整理を行う。また、登米地域の農泊等で体験可能なコンテンツを紹介する動画と写真の撮影を行い、事務所のHPやSNS、リーフレット等の広告媒体でのPRに活用できる素材づくりを実施する。	・農泊等での体験コンテンツを紹介する動画及び写真の撮影を行うとともに、その写真を活用した農泊パンフレット(農泊等の施設及び農泊者がおすすめるスポットを紹介)の作成・配布(作成部数:3,000部)、WEBサイト及びSNSを活用したPRを実施した。	○
登米圏域交流人口拡大推進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,051	現在ある魅力が引き立ち、地域の方々にとって利点のある、継続可能なイベントの確立を目標として、登米地域内でのイベントの検討、企画及び開催を行う。また、SNS(公式SNS「ほっとめーしょん」)を活用した積極的な情報発信等に取り組み、登米圏域の交流人口拡大を図る。併せて、地元の飲食店と協働し、食の宝庫である登米市の魅力ある食材を使った料理のPR活動を実施する。	①登米市内周遊誘客促進イベントの開催 現地で謎解きを行いながら登米市内を周遊するイベント「県制150周年記念トメ旅!2022」を開催したところ160名の応募があった。(R4.9月28日～R5.2月28日) ②登米市産食材のPR活動 地元飲食店3店舗と協働し、魅力ある登米市産食材を使った料理を提供する「2023 登米の冬 おなかもこころもほっこりフェア」を開催したところ約160名の参加があった。(R5.2月1日～R5.2月28日) ③登米エリアドライブマップ作成・配架 女性向けを意識した内容のドライブマップを作成し、市内外の観光物産施設や交通拠点等に配架し、登米地域のPRを行った。(作成部数:5,000部)	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	999	登米市内の高校生を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	①「みやぎの明治村歴史探訪」の開催(R4.8月、R5.1月) 登米市内の高校生を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。(計2回開催、参加者6名) ②「高校生等の観光ガイド体験会」の開催(R4.10月) 観光ガイドを行うための知識を習得することを目的とした「みやぎの明治村」内の文化施設やそれらに関する歴史について学ぶことができる勉強会を開催するとともに、観光ガイド実習を実施した。(計5回開催、参加者1名) ③「登米の地域産業見学・体験会」の開催(R5.1月) 登米市内の小学生などを対象に、地元産業に関心を持ってもらうことを目的とした登米の地域産業見学・体験会を開催した。(計1回開催、参加者34名)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2022」のコースイベント（10/8）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	○
地域の課題解決型観光戦略推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,980	気仙沼・南三陸地域にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムを組み合わせた旅行商品の企画・造成及び販売を行うことで冬期における誘客促進と観光消費の増加を目指す。	・気仙沼・南三陸地域等にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムとを組み合わせた旅行商品の企画・造成、ツアーレポートの情報発信、事業評価・検証を業務委託により実施した。 ①ツアー造成 気仙沼 2回（12月、2月）、参加数9名 南三陸 1回（2月）、参加数5名 ②ツアーレポート 気仙沼、南三陸計8回配信	○
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！」来て見て浜ライン」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	・気仙沼・本吉地域で活躍する人材や観光資源などにスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：7件	○
気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	660	当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信する。	・当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信するため、業務委託により実施した。 配信回数：3回（震災伝承、グルメ、アクティビティ&キャンプ）	○
湿地環境保全・利活用事業	自然保護課	46,439	多種多様な生物が生息する淡水湖沼の生態系を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、沈水植物や在来生物を増加させるための自然再生事業を実施するとともに、ワイズユースの推進及び普及啓発のため、ラムサール条約湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによる環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆沼・内沼自然再生協議会との連携を図りながら、外来種駆除や在来生物の増殖事業等の自然再生事業を実施した。また、湿地の魅力を発信するため、水生植物園内に水生植物の解説看板10基及びベンチ2基を設置し、歩道の整備（L=100m）を行った。	
蔵王芝草平保全対策事業	自然保護課	2,072	キンコウカ、イワショウブなど高山植物の宝庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植生の破壊が進んだことから平成18年度に木道を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及ぼす恐れがあることから、老朽化対策として木道の更新を行う。	・木道の更新工事に係る測量設計委託の実施 L=0.17km	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
小規模宿泊施設普及拡大事業	食と暮らしの安全推進課	12,759	小規模宿泊施設（民泊・簡易宿所）の普及拡大により、多様な宿泊ニーズに対応可能な施設を増やすとともに、観光客の受入環境整備、関係人口増大、地域経済の活性化等を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模宿泊施設の新規開業希望者6者に対し、開業のための施設整備や備品購入のための費用の補助を行った。補助を実施した6者は全て年度内に開業（民泊5施設、簡易宿所1施設）した。</li> <li>・普及拡大のための委託事業では、新規開業者及び経営支援のためのセミナーや見学会を開催し、計32名が参加した。また、各種質問等に電話やメールで随時対応可能なサポートデスクを設置した。</li> <li>・民泊事業者数は令和3年度末と比較し、14件増となった。（R3年度末71件→R4年度末85件）</li> </ul>	
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,009	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。</li> <li>「東北文化の日」令和4年10月29日（土）、30日（日）</li> <li>関連イベント開催期間 令和4年10月29日（土）から11月27日（日）まで</li> <li>施設数 218施設</li> <li>イベント数 243イベント</li> <li>総参加者数 374,774人</li> </ul>	
首都圏県産品販売等拠点運営事業	食産業振興課・東京事務所	214,180	県産品の紹介・販路拡大及び観光案内・宣伝のほか、被災事業者の復興支援のため、首都圏アンテナショップの運営管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京アンテナショップの存在や県産品が、テレビ、雑誌等の様々なメディアで取り上げられ、県産品の販路・消費の拡大に大きく貢献し、年間の売上は5.1億円となった。</li> </ul>	
物産展等開催事業	食産業振興課	9,188	全国主要都市の百貨店で物産展を開催し、県産品の展示販売、震災からの復興や観光情報の発信に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5都市（池袋、千葉、横浜、名古屋、広島）の百貨店で物産展を開催し、2.2億円の売上となった。</li> </ul>	
地域イメージ確立推進事業	食産業振興課	1,695	多彩で豊富な「食」を創出する県という地域イメージの確立のため、知事等によるトップセールスやSNSを活用した宮城の食材に関する情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食材王国みやぎ」の地域イメージ確立のため、首都圏の大型小売店においてトップセールスによるPRを1回実施した。</li> <li>・「食材王国みやぎ」公式SNS（Facebook及びInstagram）等で情報発信を行うとともに、県産品のプレゼント企画を4回実施した結果、Instagramのフォロワー数が約3,000人となった。</li> </ul>	
県産ブランド品確立支援事業	食産業振興課	4,952	県産食材の高付加価値化及び販売力の強化のため、品質の良さに加え、消費者・実需者の共感・感動を生むストーリーを持つ県産ブランド品の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎの『食』ブランド化推進方針」を踏まえて策定した「せり」及び「メカジキ」のブランド化戦略に基づき、春せりの消費拡大のための家庭用レシピの開発（4件）、メカジキの生食の定着を図るための飲食店フェアの開催（25店舗、延べ30日）などのPR施策を実施した。</li> </ul>	
食育・地産地消推進事業	食産業振興課	6,098	食育、地産地消を通じた県産農林水産物の販路拡大のため、地産地消推進店と連携した県産農林水産物のPR、高校生を対象とした「お弁当コンテスト」、小・中学生を対象とした「伝え人派遣事業」による食育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生地産地消お弁当コンテストを開催（応募件数20校183作品）し、入賞した3作品が協賛企業とのコラボレーション商品として一般販売された。</li> <li>・食材王国みやぎ伝え人を小・中学校等へ32回派遣した。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
みやぎの食材バリューチェーン構築プロジェクト	食産業振興課	23,539	今後、県内で生産拡大が見込まれている農産物に対して、一次加工や事業者間による対応を促進するとともに、マーケティングに基づいた商品開発から食材王国みやぎのブランドイメージの浸透を踏まえた販路開拓の支援まで、食産業の各段階における付加価値を高めることにより、食のバリューチェーンを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値の高い商品づくりを支援するため、13者に対し商品開発経費の一部を補助した結果、各事業者が新商品を開発することができた。そのうち7者については、未利用資源を活用するなど環境に配慮した商品開発に繋がった。</li> <li>・また、商談機会を創出するため、山形県等と連携して展示商談会を実施し、県内食品製造業者等37者が県内外のバイヤーと商談を行ったほか、首都圏の大規模商談会に宮城県ブースを出展し、県内事業者20者が自社製品を広くPRするとともに商談を行った。</li> </ul>	
デジタルマーケティングを核とした県産品販売促進モデル構築事業	食産業振興課	57,306	県産品へ関心をもつ顧客層の把握と効果的な誘客を図る新たな販売支援の仕組み「県産品販売促進モデル」を構築し、県産品の製造・販売事業者を対象として「県産品のEC販売拡大」及び「デジタルマーケティングに係る人材育成」を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産品の魅力と県産品販売事業者のオンラインショップを紹介するアンテナサイト「宮城旬鮮探訪」及び楽天市場内県産品特集ページ「宮城県WEB物産展」を管理運営し、そこで得られたデータをセミナーにおいて県内事業者へフィードバックした。</li> </ul>	
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,921	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農村交流人材育成研修会、農泊講演会開催</li> <li>・農泊地域紹介動画作成、農泊ウェブサイトSNS広告</li> <li>・農泊地域実態調査実施</li> <li>・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施(5回)</li> </ul>	
令和のむらづくり推進事業	農山漁村なりわい課	16,867	持続可能な農山漁村づくりのため、集落機能の強化や外部人材のマッチングを行うとともに、地域と都市企業との連携を促進し、都市農村交流等の新たななりわいづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農山漁村地域WS、地域活動実施(6地域)</li> <li>・応援マッチングサイトInstagram広告</li> <li>・オンライン都市農村事業者マッチング(5地域)</li> <li>・県地域おこし協力隊による県内巡回・PF運営支援</li> </ul>	
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	5,878	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのINAKA応援隊による地域活動実施</li> <li>・交流拡大に向けた受入体制構築・活動支援(2地域)</li> <li>・都市人材・企業連携コーディネーター育成(4地域)</li> </ul>	
マツ林景観保全事業	森林整備課	27,518	松くい虫等による被害からマツ林の景観を保全するため、抵抗性マツの植栽や予防対策を実施するとともに、新たな技術を取り入れた景観保全対策を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>松くい虫抵抗性マツ植栽 1,000本</li> <li>樹幹注入 749本</li> <li>被害材搬出利用 168,569m<sup>3</sup></li> <li>ドローン被害木調査 0.65ha×6回</li> <li>植栽箇所調査 5箇所</li> </ul>	
みやぎの景観形成事業	都市計画課	55	景観形成に係る普及啓発及び市町村の景観計画策定の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観資源を生かしたまちづくりへの意識形成を行うため、景観行政セミナー(参加市町村:13市町、参加人数:17人)を実施した。</li> <li>・歴史的建造物の保存と周辺環境の整備に取り組んでいる多賀城市において先進地視察・意見交換(参加市町村:6町、参加人数:8人)を行い、自治体職員の景観形成に係る普及啓発を行った。</li> <li>・令和6年度に景観計画策定を予定している蔵王町において、景観アドバイザーによる景観講演会を開催し(参加者:町民7人、関係者:12人)、景観計画の策定支援を実施した。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。(124名の参加)</li> <li>・宮城の産業、貿易、生活文化等の発展を担ってきた仙台港周辺地域の魅力を再発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港フォトロゲイニング大会」を実施した。(47人・17チームの参加)</li> <li>・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。</li> </ul>	
多賀城創建1300年記念総合整備活用事業	文化財課	63,761	多賀城創建1300年となる令和6年の公開を目指し、多賀城の中軸部である政庁跡から南門に至る地域を集中整備し、観光資源として磨き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から施工していた「城前官衙エリア」の北半部の復元工事が完了した。部分供用の開始に当たり、一般向けのオープンセレモニーを実施し、本事業への理解や周知につながった。</li> </ul>	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	425	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介パネル設置10回</li> <li>・小中学生向けイベント4回、参加32人</li> <li>・認定ガイド講座2回、参加23人(認定ガイドが日本遺産を紹介した回数:283回)</li> <li>・講演対応18件、参加者690名</li> <li>・公式SNSによる情報発信(フォロワー473人)</li> <li>・伝統工芸体験プログラム開催(東京・山口/参加者70人)</li> </ul>	
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	8,221	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座等を開催し、延べ350人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>・多賀城跡の三次元地形測量を実施し、地形図を作成したほか、三次元データはデジタルマップの制作など多方面での活用が可能となった。</li> </ul>	

(2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	○
県内教育旅行等支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内の教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	○
フィルムコミッション推進事業	観光政策課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。</li> <li>「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数189件、撮影実績31件</li> </ul>	○
観光地の空間的魅力創出事業	観光政策課	72,574	地域・産業の稼ぐ力の回復・強化を図るため、市町村が実施する観光施設の改修費等への嵩上げ補助により、地域一体となった高付加価値化に向けた取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴子温泉郷の観光事業者等が実施した高付加価値化のための宿泊・観光施設の改修又は廃屋撤去等の経費について、県から嵩上げ補助を行った。</li> <li>交付決定件数:31施設(観光施設改修:20施設、宿泊施設改修:10施設、廃屋の撤去:1施設)</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。</li> </ul>	○
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。</li> </ul>	○
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>主な実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>「150周年だヨ！全員集合！みやぎ、さあ、いこう！スタンプラリー」参加総数7,369人</li> <li>「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10</li> <li>「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数50 (フォロワー数約4,000人増)</li> </ul> </li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光プロモーション推進室	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。</li> <li>むすび丸による観光PR、おもてなし124回</li> <li>メディア出演等35本</li> </ul>	
宮城オルレ推進事業	観光プロモーション推進室	23,351	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内向けには、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら9月17日～11月30日まで「宮城オルレフェア2022」を開催した。</li> <li>各コースで実施されたイベントへの参加者数：350人以上</li> <li>延べ利用者数：約5万人（平成30年10月のオープン以降、国内外合計）</li> <li>国外向けには、済州オルレウォーキングフェスティバル代替イベントに現地参加し、パンフレット等を配布。また、台湾にてアジア・トレイルズ・カンファレンスに参加し、宮城オルレのPRを実施。</li> </ul>	○
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTubeで配信を行った。</li> <li>バンパー広告表示回数：17,214,137回</li> <li>インストリーム広告視聴回数：1,622,564回</li> <li>県制150周年記念事業の一環として周遊企画を行った。</li> <li>「巡ってもらおう 素敵な賞品！みやぎ、さあ、いこう！ポストを旅するキャンペーン」 応募総数783人</li> <li>リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」 最終参加者数2,513人</li> <li>7航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼 coworkingスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。</li> </ul>	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	794	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、173人が受験したほか、出前講座を6回開催し、204人が参加した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitter キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「仙南の麺を堪能！白石温麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン(10～11月)の実施(参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント)</li> <li>3県連携(山形、福島)マルシェ(11月)(来場者数約6,000人)</li> <li>管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催(4月:道の駅かくた、5月:おもしろいし市場、11月:道の駅村田)</li> <li>みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進(新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目)</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Twitter キャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加(年度末フォロワー数約1万人)。</li> <li>「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	<p>宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型周遊企画を実施する。</p>	<p>宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型の周遊企画「おでかけむそーらり～」を実施した。(イベント参加者数:481人)</p>	○
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	111	<p>観光客に栗原の魅力を伝え、心温かく案内できる観光ガイドを養成するための講座を開設する。</p> <p>地域の方々が地元の魅力を再認識する機会を創出し、地域内旅行(マイクロツーリズム)の機運醸成を図る。</p>	<p>シビックプライドの醸成を目的としたセミナーを開催した。</p> <p>セミナー5日(6コマ)、受講者18名</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	999	登米市内の高校生を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	①「みやぎの明治村歴史探訪」の開催 (R4.8月、R5.1月) 登米市内の高校生を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。(計2回開催、参加者6名) ②「高校生等の観光ガイド体験会」の開催 (R4.10月) 観光ガイドを行うための知識を習得することを目的とした「みやぎの明治村」内の文化施設やそれらに関する歴史について学ぶことができる勉強会を開催するとともに、観光ガイド実習を実施した。(計5回開催、参加者1名) ③「登米の地域産業見学・体験会」の開催 (R5.1月) 登米市内の小学生などを対象に、地元産業に関心を持ってもらうことを目的とした登米の地域産業見学・体験会を開催した。(計1回開催、参加者34名)	○
宮城県戦略的的魅力発信事業	広報課	23,430	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	・全国放送網のテレビや雑誌等のトランスメディアやネットメディアを活用したPRパブリシティにより、観光・食等の宮城の様々な魅力を発信し、テレビ7本、雑誌及びWEB雑誌6本の計13本の露出を獲得した。	○
湿地環境保全・利活用事業	自然保護課	46,439	多種多様な生物が息づく淡水湖沼の生態系を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、沈水植物や在来生物を増加させるための自然再生事業を実施するとともに、ワイズユースの推進及び普及啓発のため、ラムサール条約湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによる環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆沼・内沼自然再生協議会との連携を図りながら、外来種駆除や在来生物の増殖事業等の自然再生事業を実施した。また、湿地の魅力を発信するため、水生植物園内に水生植物の解説看板10基及びベンチ2基を設置し、歩道の整備(L=100m)を行った。	○
蔵王芝草平保全対策事業	自然保護課	2,072	キンコウカ、イワショウブなど高山植物の宝庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植生の破壊が進んだことから平成18年度に木道を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及ぼす恐れがあることから、老朽化対策として木道の更新を行う。	・木道の更新工事に係る測量設計委託の実施 L=0.17km	○
自然の家人と自然の交流事業	生涯学習課	1,899	各県立自然の家の立地環境を生かし、自然環境への興味関心を高める自然体験活動プログラムを実施する。	・各自然の家で自然環境への興味関心を高める自然体験活動プログラムを実施した。 蔵王自然の家 めざせ！蔵王マイスター(全3回)、蔵王に登ろう！山ガール教室(全3回)、野外活動指導者研修会、リフレッシュ in 蔵王 松島自然の家 バードウォッチング入門、未知の宮戸島ウォーク 志津川自然の家 シュノーケリング入門、バードウォッチング入門(全2回)、親子でウインターチャレンジ	

## (3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	○
県内教育旅行等支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内での教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	○
風評被害等観光客実態調査事業	観光政策課	11,209	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内15地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。</li> </ul>	○
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。</li> </ul>	○
地域周遊型観光・伝承バスツアー事業	東部地方振興事務所	638	東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施することで、震災伝承の推進、一層の観光振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災により特に大きな被害を受けた石巻圏域において、震災伝承、観光の魅力発信を目的としたバスツアーを実施した。 2コース 全4回、参加者 計95人</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
地域の課題解決型観光戦略推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,980	気仙沼・南三陸地域にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムを組み合わせた旅行商品の企画・造成及び販売を行うことで冬期における誘客促進と観光消費の増加を目指す。	<p>・気仙沼・南三陸地域等にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムとを組み合わせた旅行商品の企画・造成、ツアーレポートの情報発信、事業評価・検証を業務委託により実施した。</p> <p>①ツアー造成 気仙沼 2回(12月、2月)、参加数9名 南三陸 1回(2月)、参加数5名</p> <p>②ツアーレポート 気仙沼、南三陸計8回配信</p>	○
気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	660	当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信する。	<p>・当圏域の観光コンテンツであるキャンプやオルレなどのアウトドアアクティビティのほか、震災伝承施設等をWEBサイトやSNSなどのデジタル媒体を活用して広く圏域内外に対して発信するため、業務委託により実施した。</p> <p>配信回数：3回(震災伝承、グルメ、アクティビティ&amp;キャンプ)</p>	○
首都圏復興フォーラム事業運営事業	復興支援・伝承課	1,500	東日本大震災の風化防止と震災復興に対する全国からの幅広い支援の継続を訴えるため、青森・岩手・福島の被災各県及び東京都と連携し被災地の復興状況や復興に向けた取組を首都圏の住民やマスコミに広く情報提供するフォーラムを開催する。	<p>①オンラインイベント 期間：令和5年1月26日(木)から令和5年3月19日(日)まで 内容：各県・都知事、各県ゆかりの著名人からのメッセージ動画の掲載/ハッシュタグキャンペーン/震災伝承活動実施施設・団体の紹介/被災物の展示/語り部からのメッセージ放映/常設販売/ご当地スイーツ販売/東北の観光情報などを特設サイトで紹介 アクセス数：71,712(特設サイトへの来場者数合計)</p> <p>②オフラインイベント 期間：令和5年3月5日(日)～令和5年3月11日(土) 11:00～19:00 会場：汐留シオサイト(東京都港区東新橋1-5-25) 内容：パネル・動画などの展示により、東日本大震災被災状況、復興の歩みの発信・東京の支援や東北とのつながりの発信、メッセージ交換パネルの設置、地場産品・ご当地スイーツ販売等を行い、被災地の復興に対する来場者の機運の醸成を図る。 参加者：約7,630人</p> <p>③参加型企画 期間：令和5年2月10日(金)～令和5年3月11日(土) 内容：ハッシュタグキャンペーン(#東北チャージメシ2023) Instagram フォロワー獲得数：1,770 ハッシュタグキャンペーン投稿数：1,480</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
東日本大震災被災地情報発信事業	復興支援・伝承課	24,811	東日本大震災の風化防止につなげるため、来県者向けに県内の主要な風化防止・伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を作成し、情報発信を行うほか、被災地の復興支援に向けた魅力発信として、広報誌や動画等を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「みやぎ・復興の歩み12」、広報紙「Baton」、「東日本大震災復興情報コーナー」等の広報媒体を活用し、復興情報の発信を図ったほか、オンラインコンテンツの制作及び多言語化を実施した。</li> <li>①冊子「みやぎ・復興の歩み12」 令和5年3月に10,000部発行し、公共施設を中心に約2,200カ所へ発送。</li> <li>②広報紙「Baton」 年4回、各17,500部の発行、ポスター4種類×3サイズの計2万枚を作成したほか、パネル、動画も作成。</li> <li>③パンフレット「みやぎ復興のたび」 令和5年2月に25,000部（日本語・英語・中国語繁体字・中国語簡体字・韓国語）を発行し、公共施設を中心に約400カ所へ発送。</li> <li>④オンラインコンテンツの整備 「みやぎ東日本大震災津波伝承館」の展示内容等をオンライン上でも見ることができるようにしたほか、県内の主な震災遺構・伝承施設及び周辺の観光・誘客施設をエリアごとに紹介するコンテンツを作成した。</li> </ul>	
震災復興・伝承みやぎルート整備事業	道路課	148,422	自転車を活用した観光地域づくりを通じて、サイクルツーリズムの促進や地域活性化を支援するため、「宮城県自転車活用推進計画」に基づき、自転車通行環境の整備等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気仙沼市内の(一)大島浪板線等の自転車走行環境整備を推進した。</li> </ul>	

成長戦略1 合計 100事業 2,400,663千円

## 成長戦略2 観光産業の体制強化

農林水産業等の関連産業との連携強化等により、体験型プログラムの充実によるコト消費への転換を図ったほか、プロスポーツ、合宿誘致等のスポーツツーリズムや映画・アニメ等の舞台を巡るコンテンツツーリズムを積極的に展開した。また、観光産業を牽引する「人財」の育成と活躍できる環境づくりの取組を推進した。

### (1) 地域経済循環力の強化

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	○
県内教育旅行等支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内での教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	○
フィルムコミッション推進事業	観光政策課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。</li> <li>「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数189件、撮影実績31件</li> </ul>	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光政策課	162,497	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒廃した県内の登山道や遊歩道(蔵王、栗駒、気仙沼等)の整備等を行ったほか、広域観光案内板の修正等を行った。</li> </ul>	○
観光地の空間的魅力創出事業	観光政策課	72,574	地域・産業の稼ぐ力の回復・強化を図るため、市町村が実施する観光施設の改修費等への高上げ補助により、地域一体となった高付加価値化に向けた取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴子温泉郷の観光事業者等が実施した高付加価値化のための宿泊・観光施設の改修又は廃屋撤去等の経費について、県から高上げ補助を行った。</li> <li>交付決定件数:31施設(観光施設改修:20施設、宿泊施設改修:10施設、廃屋の撤去:1施設)</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。</li> </ul>	○
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光政策課	29,964	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県内のワーケーション情報を一元化して発信するWEBサイトとして「Miwork 宮城」を開設し、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等の情報を掲載することで、宮城のワーケーションの普及促進を図った。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
松島湾周遊体験 観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。	○
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 主な実績 「150周年だヨ！全員集合！みやぎ、さあ、いこう！スタンプラリー」参加総数7,369人 「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10 「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人 宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数50（フォロワー数約4,000人増）	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光プロモーション推進室	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。 むすび丸による観光PR、おもてなし124回 メディア出演等35本	○
宮城オルレ推進事業	観光プロモーション推進室	23,351	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内向けには、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら9月17日～11月30日まで「宮城オルレフェア2022」を開催した。 各コースで実施されたイベントへの参加者数：350人以上 延べ利用者数：約5万人（平成30年10月のオープン以降、国内外合計） ・国外向けには、済州オルレウォーキングフェスティバル代替イベントに現地参加し、パンフレット等を配布。また、台湾にてアジア・トレイルズ・カンファレンスに参加し、宮城オルレのPRを実施。	○
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	・誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTubeで配信を行った。 バンパー広告表示回数：17,214,137回 インストリーム広告視聴回数：1,622,564回 ・県制150周年記念事業の一環として周遊企画を行った。 「巡ってもらおう 素敵な賞品！みやぎ、さあ、いこう！ポストを旅するキャンペーン」応募総数783人 リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」最終参加者数2,513人 ・7航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼ワークスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。	○
みやぎキャッシュレス推進ポイント還元事業	富県宮城推進室	949,507	県内サービス業、小売業等の中小企業の店舗において、キャッシュレス決済(QRコード決済等)で購入した消費者に対し、購入額に応じたポイントを還元する。	・令和4年9月1日から30日までの間、「キャッシュレス決済で!みやぎを応援!最大20%戻ってくるキャンペーン」を開催し、県内中小企業等の店舗約19,000店舗が参加した。	○
みやぎの伝統的工芸品産業振興事業	新産業振興課	6,690	国及び県指定の伝統的工芸品について、新商品開発や販路拡大等の支援を行い、伝統工芸産業の普及・振興を図るとともに、工芸品や各産地の魅力を情報発信する。	・国及び県指定の伝統的工芸品の新商品開発や需要開拓等の事業に対する経費の一部を補助、展示会への出展を通して販路拡大等の支援を行った。 伝統的工芸品製造事業者への補助金交付 7件 伝統的工芸品に係るイベント等への参加 5件	
次世代型商店街形成支援事業	商工金融課	6,792	商店街のニーズや商店街を取り巻く環境の変化に適合した、次世代を見据えた持続的で発展的な商店街の構築を図るため、商店街団体等が行う商店街ビジョン形成及びビジョンに基づく課題解決の取組を支援する。	・3商店街に対してビジョン形成、ビジョンに基づく課題解決の支援を実施した。 ビジョン形成支援 2件 1,481千円 課題解決支援 3件 5,311千円	
商店街NEXTリーダー創出事業	商工金融課	5,929	魅力ある商店街の形成を促進するため、先進事例等を学ぶセミナー、実践事業への補助及びネットワーク会議により、商店街活動の新たな担い手や中心人物の創出を支援する。	・若手・女性事業者の人材育成やトライアル活動等に対する支援を実施した。 事業者向けセミナー 2コース 24名参加 トライアル活動・魅力発信支援 8団体 2,324千円 ネットワークミーティング 1回 35名参加	
中小企業経営安定資金等貸付金	商工金融課	89,000	観光客の利便性の向上及び安全・安心の確保を図るため、中小企業者が観光施設の整備等を行う際に、“伊達な旅”整備促進資金等の県制度融資により、資金融通の円滑と観光産業の振興を図る。	・観光施設の整備等を行う中小企業者に対し、“伊達な旅”整備促進資金等による融資を行い、資金の融通を図った。 ”伊達な旅”整備促進資金件数2件 金額27,000千円	
県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業	国際ビジネス推進室	11,688	農林水産物の輸出に取り組む事業者のスタートアップから海外ビジネス展開の段階に応じて細やかな個別支援を実施するとともに、輸出に当たって課題となる物流面などの課題解決に向けたバリューチェーンのモデル構築により更なる輸出拡大を図るもの。	・県産品販路開拓コーディネーターによる企業の貿易実務の個別相談対応や商談支援等(294件) ・宮城県食品輸出促進協議会と連携した輸出セミナーの開催(2回) ・JETROや大手リテール等と連携した海外フェア・商談会の開催(9回) ・事業者の輸出促進活動(海外商談会等)への補助金交付(7件:1,128千円) ・課題解決型輸出拡大バリューチェーンモデル構築事業費補助金交付(1件:1,316千円)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「宮城蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitter キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>① 食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「仙南の麺を堪能！白石石麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン（10～11月）の実施（参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント）</li> <li>・3県連携（山形、福島）マルシェ（11月）（来場者数約6,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催（4月：道の駅かくた、5月：おもしろい市場、11月：道の駅村田）</li> <li>・みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進（新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目）</li> </ul> <p>② 広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter キャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加（年度末フォロワー数約1万人）。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③ みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④ 「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南アドベンチャーーツリズム推進事業	大河原地方振興事務所	990	<p>子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーーツリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数：280件</li> <li>・モニターイベント実施（2回） 11/19 丸森・角田地区18人（5家族）竹ワークショップ＋ネギ収穫 12/10 川崎地区15人（5家族）蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等＋初キャンプ体験</li> </ul>	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	<p>仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。</p> <p>(1) 特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」（夏）</p> <p>(2) 独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」（秋冬）</p> <p>(3) 「みやぎ仙南サイクルーツリズム推進会議」との連携事業</p>	<p>① 特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2022」（R4.7～9月実施）（応募総数1,004通）</p> <p>② 県南地域部会独自企画（秋冬）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングアプリ「aruku&amp;（あるくと）」と連携したウォークラリー（応募総数229通）</li> </ul> <p>③ 「みやぎ仙南サイクルーツリズム推進会議」との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターライド（初心者体験ライド）における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施 R4.11.3 セツ宿町（参加者13名） R4.11.26 川崎町（参加者17名） R4.12.4 白石市（参加者19名）</li> </ul>	○
食関連イベント事業	北部地方振興事務所	0	<p>大崎地域の交流人口を増加させるため、また、地場産品の魅力発信及び消費拡大を図るため、食関連イベントの開催を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントは中止となったが、大崎地域の料理人や旅館ホテル経営者等で構成される「おおさき楽友会」と意見交換し、来年度のイベント実施に向け、後援手続き、チラシ配架等の支援を行った。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
登米圏域交流人口拡大推進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,051	現在ある魅力が引き立ち、地域の方々にとって利点のある、継続可能なイベントの確立を目標として、登米地域内でのイベントの検討、企画及び開催を行う。また、SNS（公式 SNS「ほっとめーしょん」）を活用した積極的な情報発信等に取り組み、登米圏域の交流人口拡大を図る。併せて、地元の飲食店と協働し、食の宝庫である登米市の魅力ある食材を使った料理の PR 活動を実施する。	①登米市内周遊誘客促進イベントの開催 現地で謎解きを行いながら登米市内を周遊するイベント「県制 150 周年記念 トメ旅！2022」を開催したところ 160 名の応募があった。（R4.9 月 28 日～R5.2 月 28 日） ②登米市産食材の PR 活動 地元飲食店 3 店舗と協働し、魅力ある登米市産食材を使った料理を提供する「2023 登米の冬 おなかもこころもほっこりフェア」を開催したところ約 160 名の参加があった。（R5.2 月 1 日～R5.2 月 28 日） ③登米エリアドライブマップ作成・配架 女性向けを意識した内容のドライブマップを作成し、市内外の観光物産施設や交通拠点等に配架し、登米地域の PR を行った。（作成部数：5,000 部）	○
宮城奥レ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城奥レ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城奥レフェア 2022」のコースイベント（10/8）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	○
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,921	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	・都市農村交流人材育成研修会、農泊講演会開催 ・農泊地域紹介動画作成、農泊ウェブサイト SNS 広告 ・農泊地域実態調査実施 ・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施（5 回）	○
令和のむらづくり推進事業	農山漁村なりわい課	16,867	持続可能な農山漁村づくりのため、集落機能の強化や外部人材のマッチングを行うとともに、地域と都市企業との連携を促進し、都市農村交流等の新たななりわいづくりを支援する。	・農山漁村地域 WS、地域活動実施（6 地域） ・応援マッチングサイト Instagram 広告 ・オンライン都市農村事業者マッチング（5 地域） ・県地域おこし協力隊による県内巡回・PF 運営支援	○
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	5,878	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	・みやぎの INAKA 応援し隊による地域活動実施 ・交流拡大に向けた受入体制構築・活動支援（2 地域） ・都市人材・企業連携コーディネーター育成（4 地域）	○
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。（124 名の参加） ・宮城の産業、貿易、生活文化等の発展を担ってきた仙台港周辺地域の魅力を再発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港フォトロゲイニング大会」を実施した。（47 人・17 チームの参加） ・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
地域と連携した高等学校魅力化事業	高校教育課	6,572	<p>地域等の諸課題の解決に取り組む等、生徒が学びたくなり、地域に根差した開かれた学校づくりを展開している高校を指定し、地域パートナーシップ会議等により地域資源を活用しながら、学びの意識や自己の役割に対する認識を深める教育プログラム等の工夫について支援する。</p> <p>※「魅力ある県立高校づくり支援事業」の後継事業。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度まで、観光関係の取組は、松島高校を指定</li> <li>令和5年度新規募集：2月下旬～3月</li> <li>令和5年度指定校決定：4月下旬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ボランティアガイドとして、15団体約714人を受け入れて活動を行った。</li> <li>松島町の観光課や観光協会の協力により、様々な講話をいただき、町と連携した開発コンセプトを理解した上で松島観光PRリーフレットの作成や観光商品としての「あかもくどら焼き」を開発するなど、充実した活動を行うことができた。</li> <li>ガイド中に地震が発生した際に観光客を安全に誘導するための避難訓練を実施し、ガイドとしてのスキルアップを図ることができた。</li> </ul>	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	425	<p>日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介パネル設置10回</li> <li>小中学生向けイベント4回、参加32人</li> <li>認定ガイド講座2回、参加23人（認定ガイドが日本遺産を紹介した回数：283回）</li> <li>講演対応18件、参加者690名</li> <li>公式SNSによる情報発信（フォロワー473人）</li> <li>伝統工芸体験プログラム開催（東京・山口/参加者70人）</li> </ul>	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	8,221	<p>持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座等を開催し、延べ350人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>多賀城跡の三次元地形測量を実施し、地形図を作成したほか、三次元データはデジタルマップの制作など多方面での活用が可能となった。</li> </ul>	○

## (2) 地域を支える観光人財の育成・確保

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光政策課	68,295	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営やバス助成金及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(107件、延べ4,147名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、239件、33,960,000円を交付した。</li> </ul>	○
県内教育旅行等支援事業	観光政策課	6,157	県内の小・中学校による宿泊を伴う県内での教育旅行や校外学習を通じ、地元の魅力を再発見する機会を創出するとともに、宿泊事業者やバス事業者への支援を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内学校の教育旅行等に係るバス助成事業を実施した。(交付決定件数44件)</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。</li> </ul>	○
未来を担う観光人材プロジェクト	観光政策課	2,984	観光産業を持続的に成長させていくため、県内の学生、全国通訳案内士、ボランティアガイドなどを対象として、観光産業の基本・トレンド・インバウンド対応などに関する研修会や研修内容の実践・活躍機会の確保、自主的に行う観光振興活動等を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の高校生、全国通訳案内士、ボランティアガイド等を対象に、基礎研修会及び実践力向上研修会を各1回開催した。</li> <li>・基礎研修会受講者を対象に、実践模擬ツアーを1回開催した。</li> <li>・研修会受講者及び実践模擬ツアー受講者を対象に、県内観光関連事業者とのマッチング交流会を2回開催した。</li> <li>・県内の高校(3校)が自主的に行う観光振興活動に対する支援を行った。</li> </ul>	
未来を担う観光人材レベルアップ支援事業	観光政策課	11,932	ポストコロナを見据え、県内の学生や全国通訳案内士、ボランティアガイド等を対象として、国内の先進的な安河内におけるインバウンド受入環境の視察やプロガイドによるガイディングスキル体験などを通じて、インバウンド受入促進に向けた宮城の観光振興を担う通訳ガイド人材のレベルアップを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度研修受講者(延べ114名)を対象に、インバウンド受入環境の視察、現地のプロ通訳ガイドによるガイディングスキル体験等を内容とする研修会を3回(東京都2回、山形県1回)開催した。</li> <li>・他分野にわたる次世代の観光の担い手間の交流のため、勉強会・定例会及び研修会を開催した。</li> </ul>	
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼ワークスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。</li> </ul>	○
みやぎキャッシュレス推進ポイント還元事業	富県宮城推進室	949,507	県内サービス業、小売業等の中小企業の店舗において、キャッシュレス決済(QRコード決済等)で購入した消費者に対し、購入額に応じたポイントを還元する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年9月1日から30日までの間、「キャッシュレス決済で!みやぎを応援!最大20%戻ってくるキャンペーン」を開催し、県内中小企業等の店舗約19,000店舗が参加した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	482	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。</li> <li>研修会 1回、11人</li> <li>地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。</li> <li>研修会 1回、16名</li> <li>公式 Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。</li> <li>英語版 65回、中国語版 64回</li> </ul>	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	999	登米市内の高校生を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「みやぎの明治村歴史探訪」の開催（R4.8月、R5.1月） 登米市内の高校生を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。（計2回開催、参加者6名）</li> <li>②「高校生等の観光ガイド体験会」の開催（R4.10月） 観光ガイドを行うための知識を習得することを目的とした「みやぎの明治村」内の文化施設やそれらに関する歴史について学ぶことができる勉強会を開催するとともに、観光ガイド実習を実施した。（計5回開催、参加者1名）</li> <li>③「登米の地域産業見学・体験会」の開催（R5.1月） 登米市内の小学生などを対象に、地元産業に関心を持ってもらうことを目的とした登米の地域産業見学・体験会を開催した。（計1回開催、参加者34名）</li> </ul>	○
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	425	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介パネル設置10回</li> <li>小中学生向けイベント4回、参加32人</li> <li>認定ガイド講座2回、参加23人（認定ガイドが日本遺産を紹介した回数：283回）</li> <li>講演対応18件、参加者690名</li> <li>公式 SNS による情報発信（フォロワー473人）</li> <li>伝統工芸体験プログラム開催（東京・山口/参加者70人）</li> </ul>	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	8,221	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座等を開催し、延べ350人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>多賀城跡の三次元地形測量を実施し、地形図を作成したほか、三次元データはデジタルマップの制作など多方面での活用が可能となった。</li> </ul>	○

成長戦略2 合計 44事業 2,860,087千円

成長戦略3 受入環境の整備促進

沿岸部のにぎわい創出に向け、観光集客施設の設置に向けた助成を行ったほか、クルーズ船の県内寄港に向けた取組を推進した。また、キャッシュレス化の推進や、無料公衆無線LAN整備を通して、観光客の利便性向上に努めると共に、観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の整備に取り組んだ。

(1) 旅行者の安全・安心確保

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光政策課	162,497	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道(蔵王、栗駒、気仙沼等)の整備等を行ったほか、広域観光案内板の修正等を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光政策課	319	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数2団体)	
安心な観光地づくり推進事業	観光政策課	6,677	PRポスターやステッカー等により、観光事業者等が行う安全・安心の取組について可視化するとともに、優良事例の情報発信を行い、観光客受け入れに向けた機運醸成を図る。	・観光施設1件にポスターとステッカーを発行した。 ・チェックリスト掲載施設を観光連盟ホームページに公開し、情報発信を行った。 ・感染予防対策徹底を促すリーフレット・チラシ、ツールを作成し、観光客に対する普及啓発を行った。 ・県内宿泊施設でクラスターが発生した際に、速やかに実地確認ができるよう体制を整えた。	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。	○
みやぎキャッシュレス推進ポイント還元事業	富県宮城推進室	949,507	県内サービス業、小売業等の中小企業の店舗において、キャッシュレス決済(QRコード決済等)で購入した消費者に対し、購入額に応じたポイントを還元する。	・令和4年9月1日から30日までの間、「キャッシュレス決済で!みやぎを応援!最大20%戻ってくるキャンペーン」を開催し、県内中小企業等の店舗約19,000店舗が参加した。	○
多文化共生推進事業	国際政策課	10,224	多文化共生の基本理念の普及・浸透を目指し、「宮城県多文化共生社会推進計画」に基づき、今後一層の増加が見込まれる外国人に対し、地域において更なる受入環境整備を図ることを目的とした事業を実施する。	・みやぎ外国人相談センターの設置運営(相談件数376件) ・災害時通訳ボランティアの整備(登録者数114人、18言語) ・多文化共生シンポジウムの開催(1回、参加者65人) ・小学6年生向け(21,000枚)並びに小中学校教員及び保護者向け(7,000枚)多文化共生啓発チラシ作成配布 ・多文化共生社会推進審議会の開催(2回) ・知事と外国人県民との座談会の開催(1回、参加者3人) ・技能実習生等との交流会の開催(1回、参加者41人)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
無料公衆無線LAN整備事業	デジタルみやぎ推進課	7,656	ICTを利活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自のSSIDによる無料公衆無線LAN「みやぎFreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県有施設におけるみやぎFreeWi-Fiの整備に加え、県内全市町村に、1,013箇所1,440のアクセスポイント（AP）を設置した。</li> <li>公共施設：130箇所241AP 宮城県、石巻市、塩竈市、気仙沼市他20市町村</li> <li>宿泊施設等：72箇所148AP</li> <li>その他飲食店等：811箇所1,051AP</li> </ul>	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	150	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約3年ぶりとなるクルーズ船の寄港受入を実施（R4.11.3）。また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社4者に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。</li> </ul>	○

## (2) 多様化する旅行者の受入環境整備

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光政策課	4,278	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な箇所には新しい案内看板を設置する。	・セヶ宿町などの東北自然歩道における案内標識、指導標識、解説標識等の整備を行った。	○
観光施設再生・立地支援事業	観光政策課	0	震災により被害を受けた観光事業者が行う施設・設備等の復旧に対して、経費の一部を支援する。	・募集を行い、問い合わせ等に都度対応した。(申請件数は、再生支援型、立地支援型いずれも0件)	○
沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業	観光政策課	290,660	沿岸部に集客力の高い宿泊施設や観光集客施設を設置する事業者に対して補助金を交付することにより、宿泊などを伴う消費効果の高い観光客を誘致し、沿岸部の活性化を図る。	・令和2年度からの繰越事業(観光集客施設型2件)が完了した。	○
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光政策課	6,352	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設の公衆無線LAN機器設置や案内表示の多言語化等に取り組み、観光客の利便性向上や観光リピーターの増加、観光消費額向上を図る。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数8件)	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光政策課	162,497	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道(蔵王、栗駒、気仙沼等)の整備等を行ったほか、広域観光案内板の修正等を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光政策課	319	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数2団体)	○
宿泊施設感染防止対策等強化事業	観光政策課	174,165	県内宿泊施設に対して、感染防止対策の徹底や接触リスクの減少に繋がる物品の購入や設備導入に係る支援を実施する。	・ホテル等宿泊施設に対し、消毒液等の購入や、空気清浄機等の導入に係る経費を補助した。(交付決定件数121件)	○
MICE(国際会議等)の誘致推進事業	観光政策課	2,167	多くの外国人を一時に招致できるMICE(国際会議等)の誘致を積極的に実施し、高い経済波及効果を生み出すため、専門のスタッフを抱え誘致事業に精通した団体への補助を行う。	・コンベンション開催経費の一部を支援し、開催誘致を促進した。(国内会議:15件,国際会議:8件 合計23件)	
安心な観光地づくり推進事業	観光政策課	6,677	PRポスターやステッカー等により、観光事業者等が行う安全・安心の取組について可視化するとともに、優良事例の情報発信を行い、観光客受け入れに向けた機運醸成を図る。	・観光施設1件にポスターとステッカーを発行した。 ・チェックリスト掲載施設を観光連盟ホームページに公開し、情報発信を行った。 ・感染予防対策徹底を促すリーフレット・チラシ、ツールを作成し、観光客に対する普及啓発を行った。 ・県内宿泊施設でクラスターが発生した際に、速やかに実地確認ができるよう体制を整えた。	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光政策課	1,556	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・令和2年6月に会議を設置し、県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計10回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの最終案の検討を行った。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
観光交通機能強化事業	観光政策課	45,300	観光地までの渋滞状況や、飲食店等の観光施設における混雑状況について、AIカメラ等を活用し、可視化するとともに、観光用のデジタルマップにより、観光施設情報と一体的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗駒山、鳴子峡、松島の3地区において、紅葉時期等の観光シーズンに合わせ、駐車場や観光施設にセンサーやAIカメラを設置して混雑状況を把握し、デジタルマップ「ミヤギタビマップ」による情報発信を行った。</li> <li>・観光シャトルバスの運行及びデジタルマップでの運行状況の表示の他、観光施設等へのレンタサイクルの設置を行い、観光地内の周遊促進、移動の円滑化を図った。</li> </ul> デジタルマップ閲覧数:計 22,801回、 レンタサイクル利用回数:計 335回	
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光政策課	29,964	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県内のワーケーション情報を一元化して発信するWEBサイトとして「Miwork 宮城」を開設し、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等の情報を掲載することで、宮城のワーケーションの普及促進を図った。</li> </ul> 掲載施設数: 118件	○
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTubeで配信を行った。</li> <li>バンパー広告表示回数:17,214,137回 インストリーム広告視聴回数:1,622,564回</li> <li>・県制150周年記念事業の一環として周遊企画を行った。</li> <li>「巡ってもらおう 素敵な賞品!みやぎ、さあ、いこう!ポストを旅するキャンペーン」 応募総数 783人</li> <li>リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」 最終参加者数 2513人</li> <li>・7航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。</li> </ul>	○
宮城・山形合同観光PR事業	観光プロモーション推進室	— (非予算)	東北自動車道安達太良サービスエリア等において、山形県と合同で臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の広域観光ルート確立推進事業を展開した。</li> <li>・貸切バスを活用した周遊観光ツアーの造成等支援</li> <li>・宮城・山形Instagram/ムービーコンテスト</li> <li>・宮城・山形合同観光PRイベント等</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光政策課	15,914	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎市鳴子温泉地区において、空き家を改修したカフェ兼ワークスペースの整備を支援するとともに、地域の担い手との意見交換会やモデル地域間の交流会を開催した。</li> </ul>	○
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	482	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。</li> <li>研修会 1回、11人</li> <li>・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。</li> <li>研修会 1回、16名</li> <li>・公式Facebook(英語・中国語版)による情報発信を実施した。</li> <li>英語版 65回、中国語版 64回</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
無料公衆無線LAN整備事業	デジタルみやぎ推進課	7,656	ICTを利活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自のSSIDによる無料公衆無線LAN「みやぎFreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	・県有施設におけるみやぎFreeWi-Fiの整備に加え、県内全市町村に、1,013箇所1,440のアクセスポイント(AP)を設置した。 公共施設：130箇所241AP 宮城県、石巻市、塩竈市、気仙沼市他20市町村 宿泊施設等：72箇所148AP その他飲食店等：811箇所1,051AP	○
サテライトオフィス設置推進事業	地域振興課	5,007	宮城県内にサテライトオフィスを設置した宮城県外に所在する企業・大学に対し、オフィスの賃料や家賃補助を行う。	・テレワークの実施場所を新たに宮城県内に設ける企業等に対して、補助金を交付した。 設置推進補助(民間事業者向け賃料補助) 12社 5,006,900円	○
小規模宿泊施設普及拡大事業	食と暮らしの安全推進課	12,759	小規模宿泊施設(民泊・簡易宿所)の普及拡大により、多様な宿泊ニーズに対応可能な施設を増やすとともに、観光客の受入環境整備、関係人口増大、地域経済の活性化等を図る。	・小規模宿泊施設の新規開業希望者6者に対し、開業のための施設整備や備品購入のための費用の補助を行った。補助を実施した6者は全て年度内に開業(民泊5施設、簡易宿所1施設)した。 ・普及拡大のための委託事業では、新規開業者及び経営支援のためのセミナーや見学会を開催し、計32名が参加した。また、各種質問等に電話やメールで随時対応可能なサポートデスクを設置した。 ・民泊事業者数は令和3年度末と比較し、14件増となった。(R3年度末71件→R4年度末85件)	○
クルーズ船受入促進事業	港湾課	150	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応(おもてなし)を行う。	・約3年ぶりとなるクルーズ船の寄港受入を実施(R4.11.3)。また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社4者に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	○
仙台空港交通アクセス充実支援事業	空港臨空地域課	4,111	空港へのアクセス強化と観光地等への移動手段の回復や仙台空港の更なる利用促進を図るため、仙台空港発着のバス路線を再開・新規運行し、3ヶ月継続して運行したバス事業者に対し運行経費の2分の1を補助する。	・国際線再開が遅れ、バス事業者では運行再開の判断が難しかったことなどから、仙台空港発着の1社1路線にとどまり、その運行経費に対する補助を行った。	
「観光力強化」のための交通安全施設整備事業	交通規制課	296,528	外国人旅行者や障害のある方などをはじめとした全ての旅行者が、安全安心かつアクセスしやすい交通環境を整備するため、マイカーやバスのアクセス性向上につながる交通管制システムの拡充及び英語を併記する交通規制標識の整備、また、バリアフリー型交通安全施設等の更なる整備や充実を図る。	・交通管制センターの高度化、集中制御エリアの拡充、情報収集装置の整備等を実施したほか、歩行空間のバリアフリー化を図った。	

成長戦略3 合計 30事業 2,282,915千円

#### 成長戦略4 戦略的な誘客プロモーション

国内外からの誘客回復を図るため、デジタルマーケティングを活用し、旅行者のニーズの変化を的確に把握すると共に、安心・安全な観光地としての認知度向上に向けた情報発信に取り組んだ。また、長期滞在による観光消費の拡大を目指し、東北各県や東北観光推進機構等と連携した広域周遊観光の促進により、東北各県への誘客を強化した。

##### (1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
松島湾周遊体験観光地整備事業	観光政策課	60,404	仙台・松島復興観光拠点都市圏において、観光資源の発掘、磨き上げ、受入体制の整備、各種プロモーションを実施する。	・松島水族館跡地整備に対する補助を行うとともに、松島湾周遊ルートの造成、地域資源・環境を生かした体験型観光コンテンツや体験学習コンテンツの創設、SNS等による発信やPR動画作成によるプロモーションの実施、ガイド人材の育成等の取組を行った。	○
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 主な実績 「150周年だヨ！全員集合！みやぎ、さあ、いこう！スタンプラリー」参加総数7,369人 「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10 「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人 宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数50 (フォロワー数約4,000人増)	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光プロモーション推進室	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。 むすび丸による観光PR、おもてなし124回 メディア出演等35本	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光プロモーション推進室	88,791	新型コロナウイルス感染症により打撃を受けた県内観光の早期回復のため、戦略的にデジタルを活用し、「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」のプロモーションを実施する。	・インバウンド向け観光デジタルプロモーション推進事業 VISIT MIYAGI 改修 広告等 約16,989,000PV ・首都圏等からのインバウンド誘客促進事業 バナー広告 2,257,800PV 交通広告 東京駅2箇所4週間 東京駅たびコンシェルジュでの商品券引換券配付300枚	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光プロモーション推進室	37,463	感染症の影響により、甚大な影響を受けたインバウンドの早期回復に向けて、東北各県等と連携した積極的な誘客活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博(R4.11.18~11.21)に出展し、入場者数はコロナ前を上回り125,580人となった。</li> <li>現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は488本。合計フォロワー数は約290,000人となった。</li> </ul>	○
宮城オルレ推進事業	観光プロモーション推進室	23,351	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内向けには、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら9月17日~11月30日まで「宮城オルレフェア2022」を開催した。 各コースで実施されたイベントへの参加者数：350人以上 延べ利用者数：約5万人(平成30年10月のオープン以降、国内外合計)</li> <li>国外向けには、済州オルレウォーキングフェスティバル代替イベントに現地参加し、パンフレット等を配布。また、台湾にてアジア・トレイルズ・カンファレンスに参加し、宮城オルレのPRを実施。</li> </ul>	○
域内誘客・周遊事業	観光プロモーション推進室	77,787	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画等を実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘客促進に繋がる動画広告を作成し、YouTubeで配信を行った。 バンパー広告表示回数：17,214,137回 インストリーム広告視聴回数：1,622,564回</li> <li>県制150周年記念事業の一環として周遊企画を行った。 「巡ってもらおう 素敵な賞品!みやぎ、さあ、いこう!ポストを旅するキャンペーン」 応募総数783人 リアル宝探し企画「ラプラスと伝説の秘宝」 最終参加者数2,513人</li> <li>7航空会社と連携した宮城県への誘客プロモーション業務を実施した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
宿泊・観光需要創出事業	観光プロモーション推進室	12,779,575	新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた観光業の早期回復や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要への対応のため、新たな旅行形態の変化に応じた周遊企画などを実施し、県内観光地への域内流動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民宿泊割</li> <li>&lt;実施期間&gt; R3.10.15～R4.10.10</li> <li>&lt;内容&gt; 宿泊代金の割引(宿泊代金の2分の1、1泊当たり最大5,000円)及び地域限定クーポン券の配布(1泊当たり最大2,000円分)</li> <li>&lt;実績&gt; 約96万人泊</li> <li>・全国旅行支援</li> <li>&lt;実施期間&gt; ①R4.10.11～R4.12.27 ②R5.1.10～R5.7.21</li> <li>&lt;内容&gt; ①割引率:40%、割引上限額:交通付商品8,000円/交通付商品以外5,000円 クーポン上限額:平日3,000円/休日1,000円 ②割引率:20%、割引上限額:交通付商品5,000円/交通付商品以外3,000円 クーポン上限額:平日2,000円/休日1,000円※電子クーポン</li> <li>&lt;実績(R5.3末時点)&gt; 約136万人泊</li> </ul>	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光プロモーション推進室	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリシタン巡礼ツアーに係る旅行会社等招請事業の実施</li> <li>・貸切バスを活用した周遊観光ツアー造成補助</li> <li>・Instagramを活用した投稿キャンペーンの実施</li> </ul>	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光プロモーション推進室	2,231	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイオンラインメディア等を活用したインバウンド誘客促進事業 招待メディアリーチ数 203,601人</li> <li>・タイオンラインメディア等を活用した広告配信事業 広告リーチ数 6,178,411人</li> <li>・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業 造成ツアー21本、造成ツアー総客数558人</li> </ul>	○
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光政策課・観光プロモーション推進室	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。</li> <li>・東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施</li> <li>・台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施</li> </ul>	○
海外交流基盤再構築事業	国際政策課	2,415	震災により大幅に減少した外国人観光客等の誘致を図るため、訪問団等を積極的に受け入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外からの賓客等の受入26件</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
海外交流基盤強化事業	国際政策課	7,549	中国吉林省、米デラウェア州等海外自治体等との関係を強化するため、訪問団の派遣や受入れを行い、本県のPR等を効果的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国吉林省については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ訪問団派遣・受入の実施を見送り、友好県省35周年を記念した知事と省長による会談のほか、4分野での交流活動をオンラインで実施した。</li> <li>台湾については、県内教育関係者を対象とした「日台相互交流促進セミナー」を開催し、32名が参加した。また、台北市・新北市で開催されたランタンフェスティバルに計2回出展した。</li> <li>韓国については、駐仙台大韓民国総領事館と共同主催で「キムチフェスティバル」を開催し、これまでで初となる仙台市と塩竈市の2会場でのキムチづくりを通じた交流を実施した。</li> <li>米国デラウェア州については、姉妹県州締結25周年を迎え、州政府訪問団が来県し記念レセプション等を実施するとともに、令和5年1月、県訪問団を州政府に派遣し、州政府との実務者協議及び関係機関訪問等を実施した。また、姉妹県州25周年を祝う記念こけしを制作、贈呈したほか、県州友好の歩みをまとめたパネルを制作、展示した。</li> </ul>	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitterキャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「仙南の麺を堪能！白石温麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン(10～11月)の実施(参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント)</li> <li>3県連携(山形、福島)マルシェ(11月)(来場者数約6,000人)</li> <li>管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催(4月:道の駅かくだ、5月:おもしろいし市場、11月:道の駅村田)</li> <li>みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進(新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目)</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Twitterキャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加(年度末フォロワー数約1万人)。</li> <li>「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型の周遊企画「おでかけむそーらり〜」を実施した。(イベント参加者数:481人)	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	990	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数:280件 ・モニターイベント実施(2回) 11/19 丸森・角田地区18人(5家族) 竹ワークショップ+ネギ収穫 12/10 川崎地区15人(5家族) 蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等+初キャンプ体験	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」(秋冬) (3)「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業	①特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ!2022」(R4.7~9月実施)(応募総数1,004通) ②県南地域部会独自企画(秋冬) ・ウォーキングアプリ「aruku&(あるくと)」と連携したウォークラリー(応募総数229通) ③「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」との連携事業 ・モニターライド(初心者体験ライド)における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施 R4.11.3 七ヶ宿町(参加者13名) R4.11.26 川崎町(参加者17名) R4.12.4 白石市(参加者19名)	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の観光や食に関して、Twitter(約800件)、Instagram(約500件)、事務所ホームページ(約50件)、ブログ(約60件)等による情報発信を実施(Twitterフォロワー数約1万人、Instagram約600人)	○
SNSによる観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	国内・海外からの誘客促進を図るため大崎地域等の観光地の魅力をSNS(Youtube、Facebook、Instagram)を活用し情報発信する。	・Instagram「東北のへそ」及び「よしてきたみやぎ」、Facebook「アイラブオオサキ」を活用し情報発信を行った。	
バーチャルトリップサイトによる観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	海外からの誘客促進を図るため、大崎管内の観光地を360°映像等で紹介するバーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」で国内外に発信する。	・バーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」を4カ国語(英語・中国語(繁体字)・中国語(簡体字)・韓国語)で大崎地域の魅力を発信した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	1,118	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガッタンライナーの企画と連携し、「三陸地域マルシェ in 石巻駅」を開催した。</li> <li>出店数 14店舗、来場者 約600人</li> <li>・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成・配布した。</li> <li>発行部数 3万部</li> <li>・南三陸町において、新たな震災伝承施設やアクティビティ等の取組を学ぶ研修会を開催した。</li> <li>研修会 1回 18人</li> </ul>	○
気仙沼地方振興事務所公式Instagramによる情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	35	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。</li> <li>投稿数 151件（総数459）</li> <li>フォロワー増加数 431（総数1,814）</li> </ul>	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宮城オルレフェア2022」のコースイベント（10/8）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。</li> </ul>	○
デジタルスタンプラリー事業	気仙沼地方振興事務所	626	観光客の滞留性・周遊性の向上を図るために、岩手県と連携し当圏域及び大船渡圏域の観光施設等に設置するポイントをめぐるデジタルスタンプラリー事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の滞留性・周遊性の向上を図るため、岩手県大船渡地域振興センターと連携し当圏域（気仙沼市、南三陸町）及び大船渡圏域の観光施設等に設置するポイントをめぐるデジタルスタンプラリー事業を実施した。</li> <li>実施期間：令和4年10月25日～令和5年1月22日まで</li> <li>参加数：757人</li> <li>スタンプ押印数：2,591人</li> </ul>	
インターネット広報事業	広報課	3,903	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間48件掲載した。また、トップページ上部に掲載される大バナーについては、新型コロナに関するお知らせに特化して掲載することとし、そのほかの事業については事業PRバナーに年間20件掲載した。</li> <li>・Facebookは、年間316件投稿し、フォロワー数は1,455人増の13,793人となった。</li> <li>・メルマガ・みやぎは、年間49回配信し、年度末の登録者数は6,535人となった。</li> </ul>	○
宮城県戦略的魅力発信事業	広報課	23,430	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国放送網のテレビや雑誌等のトラディショナルメディアやネットメディアを活用したPRパブリシティにより、観光・食等の宮城の様々な魅力を発信し、テレビ7本、雑誌及びWEB雑誌6本の計13本の露出を獲得した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、従来のFacebookに加え、新たにInstagramを開設した。東京事務所ホームページと各SNSを活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。</li> <li>Facebook及びInstagramでの情報発信88件</li> </ul>	○
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	9,571	<p>仙台国際空港株式会社等と連携し、東北全域からのアウトバウンドの強化に取り組み、路線の拡充に向けた需要喚起を図る。</p> <p>(1) 新規路線の誘致や増便等に向けたトップセールスを実施する。</p> <p>(2) 若者を対象にした仙台空港発着の航空旅行に対して、航空券に係る購入費用の一部を助成し仙台空港の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台国際空港株式会社や関係機関と連携し、アウトバウンドの強化や路線拡充に向けた需要喚起を実施</li> <li>・国際線早期再開や新規路線の誘致に向けたトップセールスの実施</li> <li>・若者を対象にした航空券費用の一部助成や、仙台空港の路線プロモーションを実施し、アウトバウンド強化と仙台空港の活性化を図った。</li> </ul>	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	425	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介パネル設置10回</li> <li>・小中学生向けイベント4回、参加32人</li> <li>・認定ガイド講座2回、参加23人（認定ガイドが日本遺産を紹介した回数：283回）</li> <li>・講演対応18件、参加者690名</li> <li>・公式SNSによる情報発信（フォロワー473人）</li> <li>・伝統工芸体験プログラム開催（東京・山口/参加者70人）</li> </ul>	○

## (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光プロモーション推進室	83,290	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県制150周年記念キャンペーンと連動した事業のほか、コンテンツツーリズムへの対応、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>主な実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>「150周年だヨ！全員集合！みやぎ、さあ、いこう！スタンプラリー」参加総数7,369人</li> <li>「ぶかぶかラプラスとみやぎぼかぼか旅」参加宿泊施設10</li> <li>「映画 バクテン!!宮城めぐり de スタンプラリー」参加総数1,449人</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数50（フォロワー数約4,000人増）</li> </ul> </li> </ul>	○
外国人観光客誘致促進事業	観光プロモーション推進室	37,463	感染症の影響により、甚大な影響を受けたインバウンドの早期回復に向けて、東北各県等と連携した積極的な誘客活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客誘客事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>仙台市との共同で大台南国際旅行博（R4.11.18～11.21）に出展し、入場者数はコロナ前を上回り125,580人となった。</li> </ul> </li> <li>・現地誘客促進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> </ul> </li> <li>・誘客促進情報発信事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>本県が管理する海外向け公式 SNS を一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は488本。合計フォロワー数は約290,000人となった。</li> </ul> </li> </ul>	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光プロモーション推進室	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリシタン巡礼ツアーに係る旅行会社等招請事業の実施</li> <li>・貸切バスを活用した周遊観光ツアー造成補助</li> <li>・Instagramを活用した投稿キャンペーンの実施</li> </ul>	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光プロモーション推進室	2,231	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイオンラインメディア等を活用したインバウンド誘客促進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>招待メディアリーチ数 203,601人</li> </ul> </li> <li>・タイオンラインメディア等を活用した広告配信事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>広告リーチ数 6,178,411人</li> </ul> </li> <li>・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>造成ツアー21本、造成ツアー総客数558人</li> </ul> </li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光政策課・観光プロモーション推進室	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。</li> <li>・東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施</li> <li>・台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施</li> </ul>	○
「宮城・山形・福島」南東北三県観光展開催事業	大阪事務所	19	南東北三県が連携して、地域の魅力を周知し、一層の誘客促進を図るため、大阪市内において観光PRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南東北三県の大阪事務所が連携し、以下のとおり観光PRを実施した。</li> <li>①神戸空港イベントに併せた観光PR <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：令和4年6月12日（土）、13（日）の2日間</li> <li>・場所：神戸ハーバーランド umie</li> <li>・内容：観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、ご当地キャラ出演、県産品の販売</li> </ul> </li> <li>②商店街での観光物産展（宮城・山形のみ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：令和5年2月2日（木）～4日（土）の3日間</li> <li>・場所：天神橋二丁目商店街</li> <li>・内容：観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、県産品の販売</li> </ul> </li> </ul>	
東北六県観光展開催事業	大阪事務所	150	東北六県が連携し、東北の魅力等を積極的かつ集中的に提供することにより、一層の観光誘客の促進を図るため、観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、民芸品等の展示、DVD放映、ゆるキャラによるPR及び東北旅行・特産品プレゼントなどを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北六県の大阪事務所が連携し、大阪駅前の地下街で観光PRを実施した。</li> <li>・実施日：令和4年9月25日（日）、26日（月）の2日間</li> <li>・場所：ディアモール大阪ディーズスクエア</li> <li>・内容：観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、クイズラリー・特産品プレゼント</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,462	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 Twitter キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「仙南の麺を堪能！白石温麺『おくずかけ』×そば」キャンペーン(10～11月)の実施(参加店舗数12店、先着50名に仙台弁こけしグッズをプレゼント)</li> <li>・3県連携(山形、福島)マルシェ(11月)(来場者数約6,000人)</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを3回開催(4月:道の駅かくだ、5月:おもしろい市場、11月:道の駅村田)</li> <li>・みやぎ蔵王「地域の逸品」の推奨、販売促進(新規推奨6社6品目、推奨品目数80品目)</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter キャンペーン3回実施し、フォロワー数が約10倍に増加(年度末フォロワー数約1万人)。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、管内及び隣県のひな祭りイベントと菓子店を一体的にPR</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉をPRする動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を9本制作・SNSで配信</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南・置賜連携事業	大河原地方振興事務所	1,999	<p>宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテイメント型周遊企画を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県仙南地域及び山形県置賜地域の魅力を活かし、かつ、宮城県制150周年記念に合わせて、伊達家の歴史を振り返る機会とするとともに、宮城・山形の相互交流を促進するため、歴史と文化を切り口としたエンターテインメント型の周遊企画「おでかけむそーらり〜」を実施した。(イベント参加者数:481人)</li> </ul>	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	990	<p>子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台圏の子育て世帯を対象としたアンケート調査実施 回答数:280件</li> <li>・モニターイベント実施(2回)</li> <li>11/19 丸森・角田地区18人(5家族) 竹ワークショップ+ネギ収穫</li> <li>12/10 川崎地区15人(5家族) 蔵王ジオパークと連携した樹氷VR体験等+初キャンプ体験</li> </ul>	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,078	<p>仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。</p> <p>(1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏)</p> <p>(2)独自企画「秋の仙南満喫ウォークラリー」(秋冬)</p> <p>(3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業</p>	<p>①特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ!2022」(R4.7～9月実施)(応募総数1,004通)</p> <p>②県南地域部会独自企画(秋冬)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングアプリ「aruku&amp;(あるくと)」と連携したウォークラリー(応募総数229通)</li> </ul> <p>③「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターライド(初心者体験ライド)における参加者への補給食等の提供や観光PRを実施</li> <li>R4.11.3 七ヶ宿町(参加者13名)</li> <li>R4.11.26 川崎町(参加者17名)</li> <li>R4.12.4 白石市(参加者19名)</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	465	文化面・交通面での結びつきが強い宮城県仙台地域及び山形県村山地域合同の特産品販売会等を支援するとともに、両地域の魅力を発信することで、両地域の相互交流をさらに深める。	①仙台・松島地域及び村山地域における一層の相互交流を図るため、両エリアの市町村職員を対象に「『仙山圏域』×『若者』＝『 』」をテーマに、11月24日ににぎわい創造活性化施設 Link MURAYAMA（山形県村山市）でトークセッション及び施設見学を実施した。 会議参加者数 39名 ②両地域間の周遊促進を目的とした「ドライブ&家たびスタンプラリー」を9月2日から3ヶ月間開催した。 ドライブスタンプラリー参加者数 729名 家たびスタンプラリー参加者数 1,137名 ③令和4年10月12日、13日に勾当台公園市民広場で、両地域の産物を一堂に集め、生産者自ら直接販売を行う、「仙山交流味祭」を開催した。（主催は民間団体。当所は広報等の側面的支援を実施。） 出店者数：21店舗 延べ来場者数：2,400名	
最上・雄勝・大崎三県連携交流事業	北部地方振興事務所	495	大崎地域と山形県最上地域・秋田県雄勝地域との県境を越えた広域的な取組として、三地域合同の観光PRイベント等を開催する。	・Instagram「東北のへそ」を活用して、「東北のへそ」フォトコンテスト2022を開催し、東北のへそ地域の魅力発信と誘客を促進し、交流人口の拡大を図った。 ・東北のへそ三県交流まつり in 秋保を開催し、東北のへそ地域の観光・物産・郷土文化等の魅力ある地域資源の情報を発信し、誘客促進を図った。 ・仙台市、福島市等の旅行エージェントを訪問し、東北のへそ地域への誘客を図った。	
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	－ (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光・物産・郷土文化等の情報発信と誘客促進を目的とした「県際マルシェ」を開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	○
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	－ (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキングMAPや、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	○
地域の課題解決型観光戦略推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,980	気仙沼・南三陸地域にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムを組み合わせた旅行商品の企画・造成及び販売を行うことで冬期における誘客促進と観光消費の増加を目指す。	・気仙沼・南三陸地域等にある酒蔵やワイナリー、ブリュワリーなどの地域産酒類や地元商材などの観光コンテンツと様々な体験型プログラムとを組み合わせた旅行商品の企画・造成、ツアーレポートの情報発信、事業評価・検証を業務委託により実施した。 ①ツアー造成 気仙沼 2回（12月、2月）、参加数9名 南三陸 1回（2月）、参加数5名 ②ツアーレポート 気仙沼、南三陸計8回配信	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和4年度実施状況	再掲
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,009	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。</li> <li>「東北文化の日」令和4年10月29日(土)、30日(日)</li> <li>関連イベント開催期間 令和4年10月29日(土)から11月27日(日)まで</li> <li>施設数 218施設</li> <li>イベント数 243イベント</li> <li>総参加者数 374,774人</li> </ul>	○
高規格幹線道路網の整備推進事業	道路課	1,522,868	観光・産業振興、地域間交流の活性化等を図るため、東北・県土の骨格を形成する高規格幹線道路網の機能強化・利便性向上を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北自動車道の菅生スマートICが供用開始した。</li> </ul>	
仙台空港周辺の道路改善事業	道路課	169,542	仙台空港を東北の「空の玄関口」として発展させるため、空港周辺の道路改善などにより機能強化を図り、交流人口の拡大を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>名取市笠島地内等の交差点改良などを推進した。</li> </ul>	
仙台空港600万人・5万トン実現推進事業	空港臨空地域課	8,218	LCC等の航空会社と連携し、航空機の利用促進を図り、新型コロナウイルスで落ち込んだ航空需要の回復及び新たな需要の掘り起こしを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>仙台空港に就航しているLCC・ピーチ・アビエーションと連携し、オンライン(SNSを活用)・オフライン(カフェとのコラボレーション)両面からプロモーションを実施。</li> </ul>	
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	8,221	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座等を開催し、延べ350人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>多賀城跡の三次元地形測量を実施し、地形図を作成したほか、三次元データはデジタルマップの制作など多方面での活用が可能となった。</li> </ul>	○

成長戦略4 合計 50事業 15,101,680千円

## 6 基本計画の実施状況の検証

### (1) 第4期みやぎ観光戦略プランの検証

#### ① 数値目標の達成状況

- 平成30年3月に策定した第4期みやぎ観光戦略プラン（以下「第4期プラン」という。）で定めた数値目標の達成状況については、令和元年に観光客入込数及び宿泊観光客数が過去最高を記録するなど、第4期プランの取組により順調に推移してきた。特に、沿岸部の観光客入込数、沿岸部の宿泊観光客数及び外国人観光客宿泊者数の3項目は、令和元年に一年前倒しで目標を達成した。
- しかしながら、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の影響により、観光需要が大幅に落ち込み、全ての項目で、前年と比較し大幅な減少となった。
- 最終的な結果として、第4期プランの最終年である令和4年の数値では、「観光客入込数」が5,724万人（数値目標比：81.8%）、「沿岸部（石巻・気仙沼地域）の観光客入込数」が853万人（数値目標比：106.0%）、「宿泊観光客数」が778万人泊（数値目標比：77.8%）、「沿岸部（石巻・気仙沼地域）の宿泊観光客数」が71万人泊（数値目標比：94.7%）、「外国人観光客宿泊者数」が6.0万人泊（数値目標比：12.0%）、「観光消費額」が3,117億円（数値目標比：77.9%）となった。特に、沿岸部の観光客入込数は、回復が顕著であったため、数値目標を達成した。（P5,6を参照）

#### ② 具体的な取組状況

- 第4期プランの計画期間においては、基本理念である「観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ」の実現に向け、東日本大震災後に取り組んできた観光施設等の再生・復旧や沿岸部を中心とした観光資源等の情報発信、国内でのプロモーションに加えて、インバウンドへの対応強化に取り組んできた結果として、令和元年時点で数値目標の一部を達成するなど、取組の成果が確実に表れていた。
- しかしながら、令和元年12月に海外で初めて確認され、世界中で流行した感染症の影響により、観光を取り巻く環境が一変し、緊急事態宣言等の行動制限等の影響を受け、観光需要が大幅に落ち込むこととなった。
- 県としては、令和2年6月に設置したみやぎ観光振興会議において、地域の観光事業者から聴取した意見を踏まえ、観光業を回復軌道に乗せ、その後の成長軌道につなげていくための取組を推進するために、同年11月に「みやぎ観光回復戦略」（第4期プランの実施計画）を策定した。
- 併せて、第4期プランについては、「みやぎ観光回復戦略」を取り込んだ上で、当初の計画期間である令和2年度から1年半延長し、感染症からの回復や新しい観光のニーズに対応した取組を進めた。その結果として、令和3年と比較し、宿泊観光客数をはじめ、全ての項目で大幅な増加につながった。

### (2) 第5期みやぎ観光戦略プランの検証

#### ① 数値目標の達成状況

- 令和4年の「宿泊観光客数」は778万人泊で、前年と比較し194万人泊の増加（33.2%の増加、令和元年比21.3%の減少）となったほか、「観光消費額」は3,117億円で、493億円の増加（18.8%の増加、令和元年比21.9%の減少）となり、徐々に、令和6年の回復目標として定めた感染症感染拡大前の令和元年水準まで回復傾向にある。
- 一方、「外国人観光客宿泊者数」は、6.0万人泊で、前年と比較し2.4万人泊の増加（66.7%の増加、令和元年比88.8%の減少）となったものの、感染症の影響を大きく受けた結果となった。（P5を参照）

#### ② 具体的な取組状況

- 震災から12年目となった令和4年度は、「新・宮城の将来ビジョン」（以下「ビジョン」という。）の2年目に当たり、ビジョンで掲げた取組の一つである「宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興」を推進するため、301事業を積極的に展開した。

- また、感染症からの回復と収束後の新しい観光につながる取組を更に推進するために、令和4年9月に、「第5期みやぎ観光戦略プラン（以下「第5期プラン」という。）」を策定し、今後の観光施策の方向性を定めた。
- 第5期プランに基づく主な取組としては、県民宿泊割や全国旅行支援等の需要喚起策を切れ目なく実施するとともに、中小企業等再起支援事業等による事業者支援をはじめ、バス等を活用した旅行商品の造成・運行経費助成や、県内遊覧船運営事業者等の観光事業者へ支援金を交付するなど、原油価格高騰等の影響を受けた事業者に対する事業継続支援に取り組んだ。
- 宿泊施設等の高付加価値化に向けた施設改修に対する助成のほか、無線LAN機器の設置や外国語表記の整備等を行う事業者への助成など、観光需要回復に向けた受入環境整備を推進した。
- 入国制限解除後の外国人観光客誘客促進に向け、各海外市場ごとの訴求テーマを分析し、本県の魅力を伝える多言語ウェブサイト「VISIT MIYAGI」に誘導するためのバナー広告など、デジタルを活用した効果的なプロモーションを展開した。また、韓国済州島発祥のトレッキングコース「オルレ」の各コースでイベントを行う「宮城オルレフェア2022」を開催したほか、新規として村田コースの整備に向けた支援を行うとともに、韓国や台湾における海外イベントに参加し、誘客促進に向けたPRを実施した。
- 国内向け誘客対策としては、県制150周年記念事業の一環として実施したデジタルスタンプラリーや、みやぎ応援ポケモンである「ラプラス」とコラボしたラッピングバスの運行のほか、令和4年7月の「映画バクテン!!」公開に合わせて実施したゆかりのスポットを巡るスタンプラリー等、各種誘客施策を企画し、積極的な誘客プロモーションを実施した。また、教育旅行等コーディネート支援センターにおけるマッチング支援や、教育旅行バス助成金の交付を通して、教育旅行の誘致を強化し、県内の観光・宿泊需要の早期回復を図った。
- 観光客へのアンケート調査を通して、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害の実態把握に努めたほか、東日本大震災の風化防止のため、震災の伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を製作し、震災の教訓の伝承に取り組んだ。

### ③ 今後の取組方針

- 数値目標については、感染症の影響が続き、未だ感染症拡大前の令和元年水準には到達していないが、外国人観光客の入国制限が段階的に見直しされ、社会情勢が変化したことに加え、令和5年1月には、仙台国際空港で国際定期便が再開されるなど、観光を取り巻く状況が好転した。
- このような中で、宿泊需要喚起策の実施による県内への誘客促進に加え、国内外への誘客プロモーションを強化した結果、宿泊観光客数や観光消費額等が、前年と比較し軒並み大幅に増加した。また、宿泊施設の高付加価値化改修や自然公園施設の整備等により、ポストコロナに向けた受入環境整備を行い、感染症収束後の新たな観光需要に対応できるよう態勢強化を図っている。
- 引き続き、感染症の動向を注視しつつ、第5期プランに基づき、落ち込んだ観光需要の回復に向け、ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた受入環境整備や誘客プロモーション等の施策を着実に推進していく。

